

# I. 市民アンケート

## 1. 調査概要

本アンケート調査は、匝瑳市の環境保全等に係る政策を総合的かつ計画的に推進するため、環境に関する市民の意識や要望等を把握する目的で実施したものである。

- ①調査対象地域 匝瑳市全域
- ②調査対象 市内在住の満 20 歳以上の男女
- ③サンプル数 1,000 人
- ④抽出方法 住民基本台帳より層別抽出
- ⑤調査方法 郵送配布・郵送回収方式
- ⑥回収結果 回収数：355 票 回収率：35.5%  
※回収数は、全回収票より白紙票を除いた値
- ⑦全市人口 38,325 人（平成 27 年 9 月 30 日現在）
- ⑧抽出率 0.93%（有効回収数÷全市人口×100）

## 2. 調査内容（設問項目）

### ①属性

F 1 性別 F 2 年齢 F 3 居住地区

### ②設問

問 1	現在の身近な環境への意識
問 2	快適だと思う・不快だと思う場所
問 3	身近な環境で気にかかる問題
問 4	身近な環境を改善するうえでの意識
問 5	市の自然を守るため進めるべき取り組み
問 6	リサイクルや省エネルギーへの関心と実践
問 7	日常生活で行っているリサイクルや省エネルギー活動
問 8	日常生活でリサイクルや省エネルギー活動を実践していない理由
問 9	リサイクルや省エネルギーを進めるうえで重点的な取り組み
問 10	関心の高い地球問題
問 11	地球環境問題に貢献できること
問 12	市民の自主的な環境づくり活動への参加意向
問 13	市民の環境づくりへの参加を促すうえでの行政の重点的な取り組み
問 14	市民の環境づくりに参加したいと思わない理由
問 15	市の環境を守り、改善していくための役割分担
問 16	市が特に優先して取り組むべき環境施策

### 3. 調査結果

#### (1) 回答者の属性

男女比では女性が6割近くと女性からの回答が多かった。年齢では70歳以上が27.1%、60歳代が26.6%、50歳代が15.0%と年代が高くなるほど回答が多い傾向がみられ、20歳代では5.6%と10%を下回っている。

居住地区では中央地区が17.3%と最も多い結果となった。次いで豊栄地区と平和地区の10.5%でこの3地区は1割以上の回答があったが、それ以外の9地区では1割未満の回答状況で、最も回答数が少なかったのは豊和地区の3.7%であった。

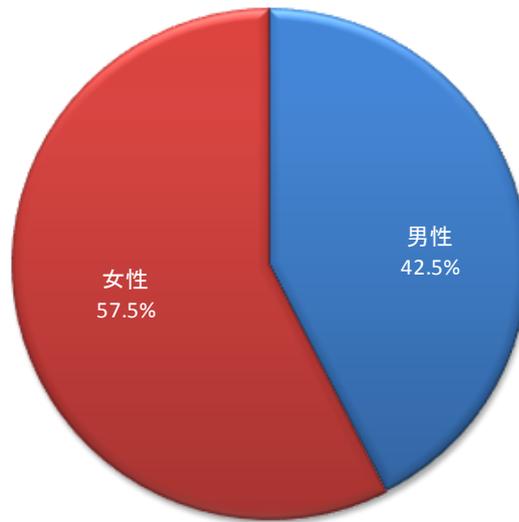


図 I -1 回答者の性別

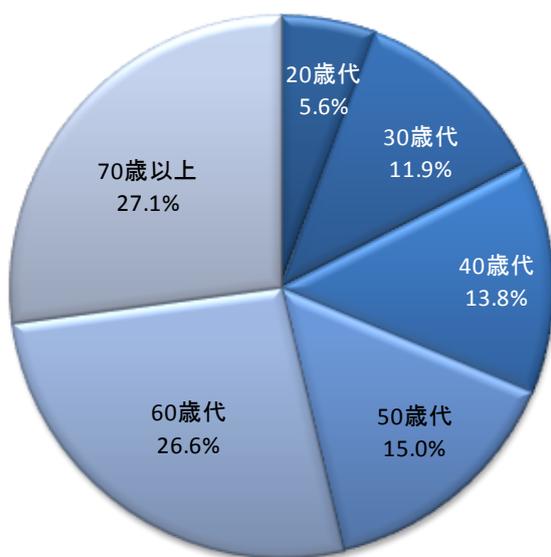


図 I -2 回答者の年齢

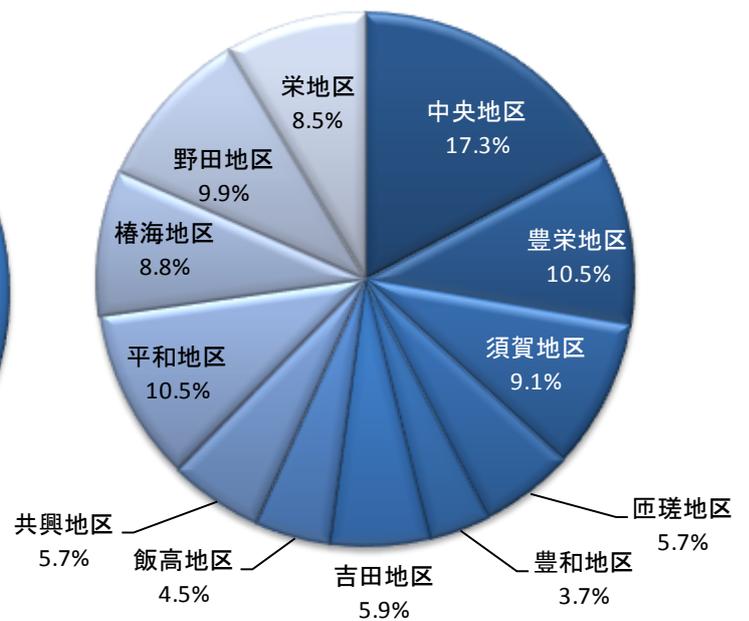


図 I -3 回答者の居住地区

## (2) 身近な環境について

### ①現在の身近な環境への意識<問1>

現在の身近な環境への意識を単一回答で尋ねたところ、「快適な環境」と回答したのは11.6%、「どちらかと言えば快適な環境」と回答したのは63.4%で、市民の75%が身近な環境が快適であると意識していることがわかった。年齢別では60歳代で8割近くの市民が快適な環境と意識しており、居住地区別では豊和地区在住の市民の9割以上が快適な環境と意識している。

一方、「快適ではない」と回答があったのは4.0%で少数派ではあるが、「どちらかといえば快適な環境ではない」と回答した21.0%と合わせると、市民の4人に1人は身近な環境に対して「快適ではない」と否定的な意識であった。年齢別では50歳代の市民が3割強、居住地区別では共興地区の5割弱が否定的な意識であった。

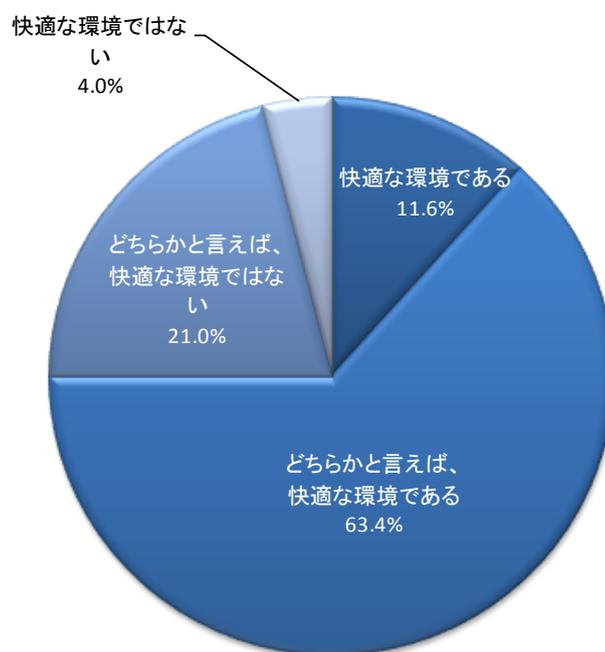


図 I-4 身近な環境への意識（全体）

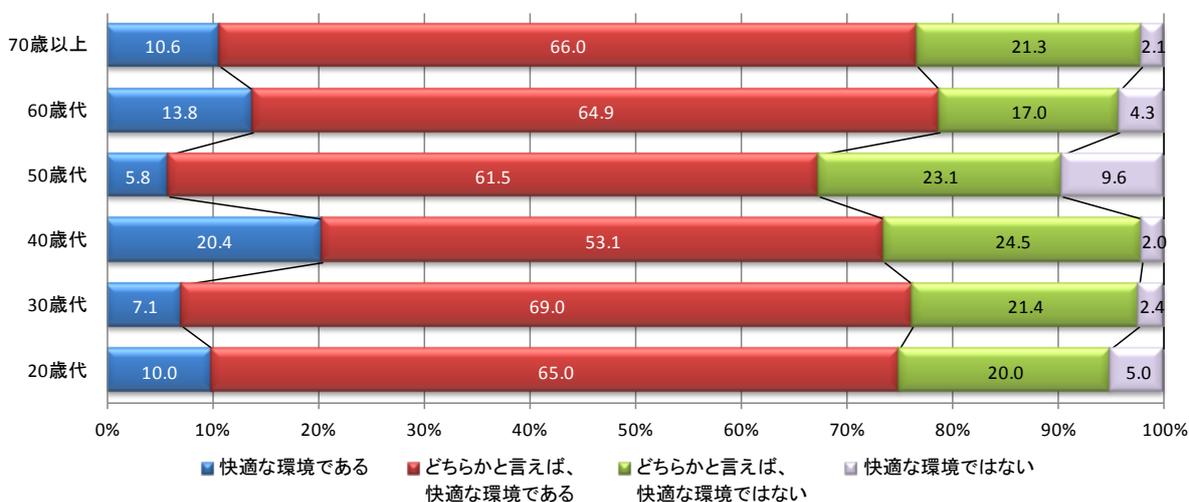


図 I-5 身近な環境への意識（年齢別）

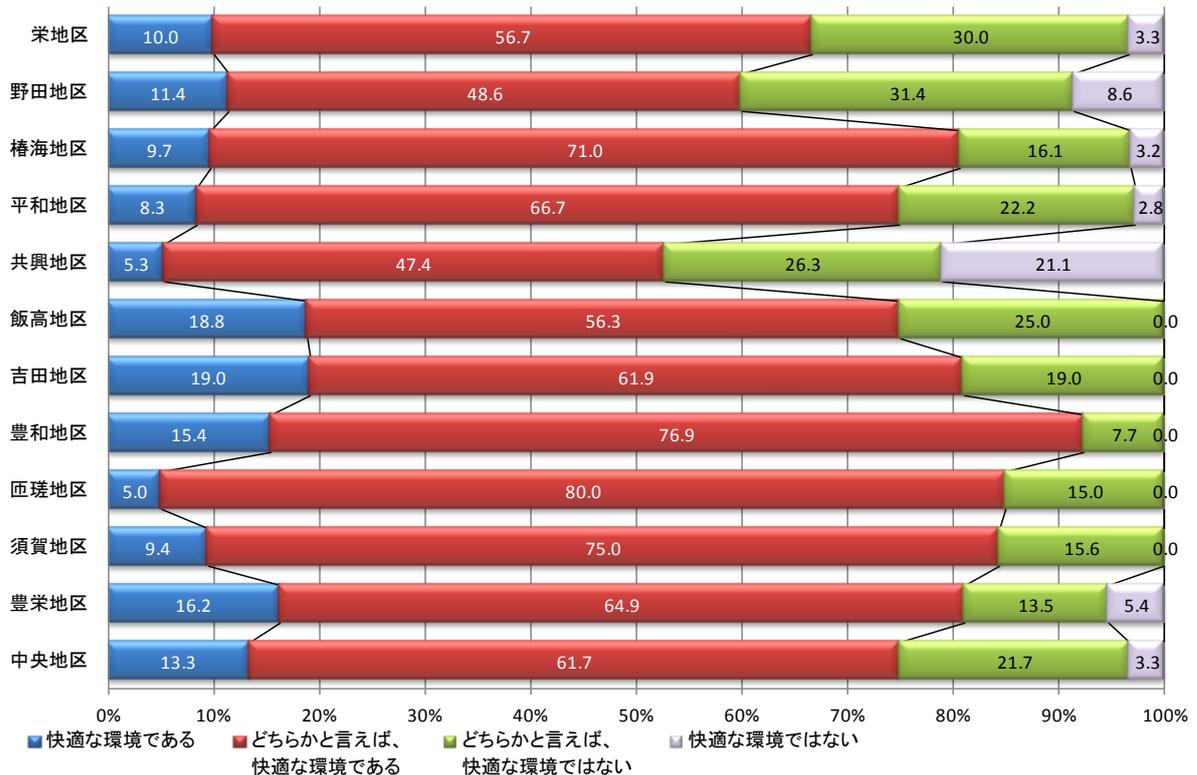


図 I -6 身近な環境への意識（居住地区別）

②快適だと思う理由や場所・不快だと思う理由や場所〈問2〉

快適と感じている理由や場所については、居住地区によって異なるが、概ね学校や保育所、公園、スーパー・コンビニ、駅・バス停などが住まいの近くにあると、満足度が高い意見が多くなる傾向が見受けられた。また、騒音や振動などがなく、自然の生き物や野鳥の囀り、長閑な田園風景や雄大な九十九里浜、飯高壇林に代表される歴史・文化施設に日々の安らぎを感じている市民が多くいるようだ。

一方、鶏舎や豚舎が近くにあると、そこからの悪臭で夏には窓も開けることができないことを記入する市民が少なからず見受けられた。豊かな自然や田園風景、国道から一步入ると交通量が少ないことを好ましく感じている反面、相反する意見として、虫が多いこと、交通が不便であること、農業用水路や路端への不法投棄やポイ捨てが目立つこと、風が強いと家の中まで農地からの砂埃が入ることなどに対し、多くの市民が不快に感じている。

また、自分の畑で野焼きをする人がおり、周辺住民は洗濯物にその臭いが付いて迷惑していることや、再生土を使用した埋め立て事業に対して、今後再生土に含まれる有害物質の影響はないかなどの不安の声もあった。

少数意見ではあったが、ゴミの不法投棄やポイ捨てが以前より減少しているとの声もあった。

## 【代表的な意見】

### ◆快適だと思ふ理由や場所

- ◇ 天神山公園に桜が咲き少し遅れて八重桜が咲き、緑一杯又市街一望出来、山を下ると田町の池、今は水蓮が咲き、いやな天候も感じられない。
- ◇ 駅近辺のわりに騒音はなく、自然も豊か。
- ◇ 家の近くが大通りではないので車の騒音がない。庭木があつて鳥も沢山来るので自然の豊かさを感じる。
- ◇ ごみの出し方のルールを守って、ごみステーションを利用している家庭が多い。公園や各家庭の庭にきれいな花が植えられている。
- ◇ 自然が残っていて四季を感じられる。
- ◇ 田舎で有り自然豊かであり、のんびり暮らせる。又、土地が有って畑で野菜を作れるので趣味となっている。
- ◇ 美術館が有る。ゴルフ練習場が有る。巨木のある、神社が有るので癒される。東京（サンショウウオ）も（沢ガニ）も見かける。自然の豊かさを感じる。
- ◇ 里山の環境がまわりに残っていることは、とても幸せなことだと思う。車が無いと生活できないことは不便だが、この田園風景は宝物だと思う。
- ◇ 田園地帯なので夏はクーラーもいらなくらいに、涼しい、冬は少し寒いかも知れないが静かで気に入っている。

### ◆不快だと思ふ理由や場所

- 毎日鶏、豚、牛、の悪臭が酷く食事中又は、そのほかで窓を閉めなければ過ごす事が出来ない。
- 老朽した建物の中に、廃棄物等がある。
- 家の前の市道が狭く消防車が入れなく道路の補修さえすれば良くなると思われる。排水口のフタをすれば道路が広がるので是非お願いしたい。椿地区（八重荷北）です。早急に。
- 通学路に歩道がなく危ない（道もそんなに広くない）街灯が少ない。
- ゴミのポイ捨てが多い。車、バイクの騒音が多い。
- 高齢者二人暮らしなので交通インフラ面で不便です。何とかして欲しいです。
- 家の後ろに有る排水溝がフタがなく、夏には蚊がわいたり、子供達が歩くのにも危ないです。
- 人家の無い場所に、ゴミがいつも捨てられている。
- 道路のL字溝のふたをしてもらいたい。悪臭もあるし危ないから。

### ③身近な環境で気にかかる問題<問3>

身近な環境で気にかかる問題を複数回答で尋ねたところ、「空缶などのポイ捨てやごみの不法投棄」が72.8%と最も多く、日頃から市民の視線に入りやすいポイ捨てが、身近な問題となっている。次に多かった問題では「川や水路の汚れや臭い」が25.6%であったが、川や水路の近辺に居住していたり、その周辺に出向く機会の多い特定の市民が感じている問題であることから、回答数はポイ捨てほど多くはなかった。

年齢別ではどの年代も「ポイ捨て」が多いが、年代が下がると「ポイ捨て」の割合が低くなり、特に70歳以上では「ポイ捨て」が80%以上であるのに対し、20歳代では55%と開きがみられた。20歳代が問題と感じているのは「自動車の排気ガスや野焼きによる煙などによる空気の汚れ」や「川や水路の汚れや臭い」が比較的多く、年代が上るとこれらの割合が低くなっている。

居住地区別では、野田地区と共興地区で「川や水路の汚れや臭い」が問題としている市民が4割以上と他の地区よりも多かった。

また、豊和地区では25%の市民が「ダイオキシン類や環境ホルモンなどの化学物質による汚染」が問題としており、中央地区では25%の市民が「鉄道、自動車や工場、近隣の騒音や振動」が問題と感じており、居住地区により問題と思う内容が異なっている。

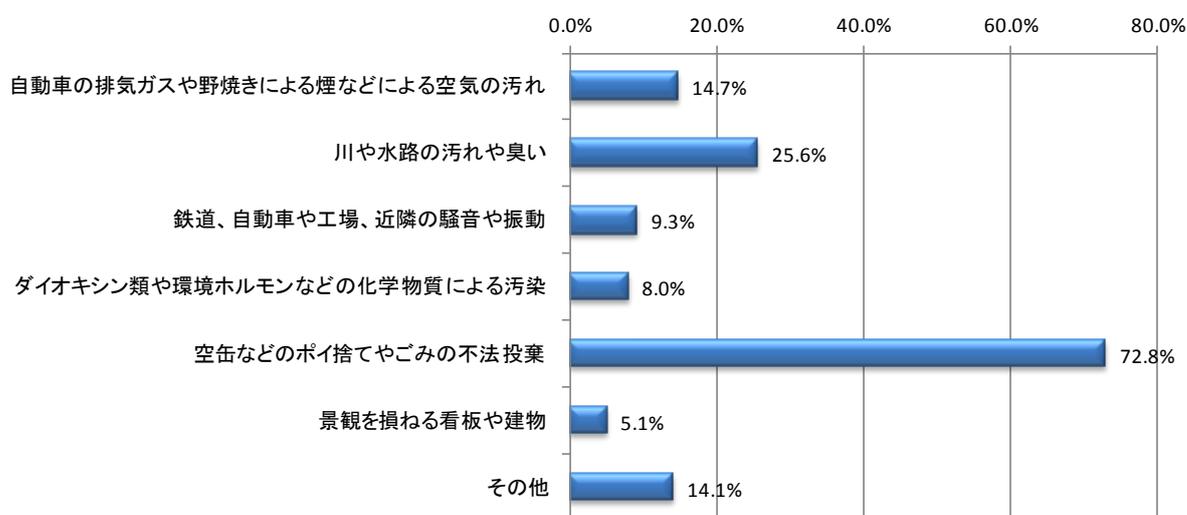


図 I-7 身近な環境で気にかかる問題（全体）

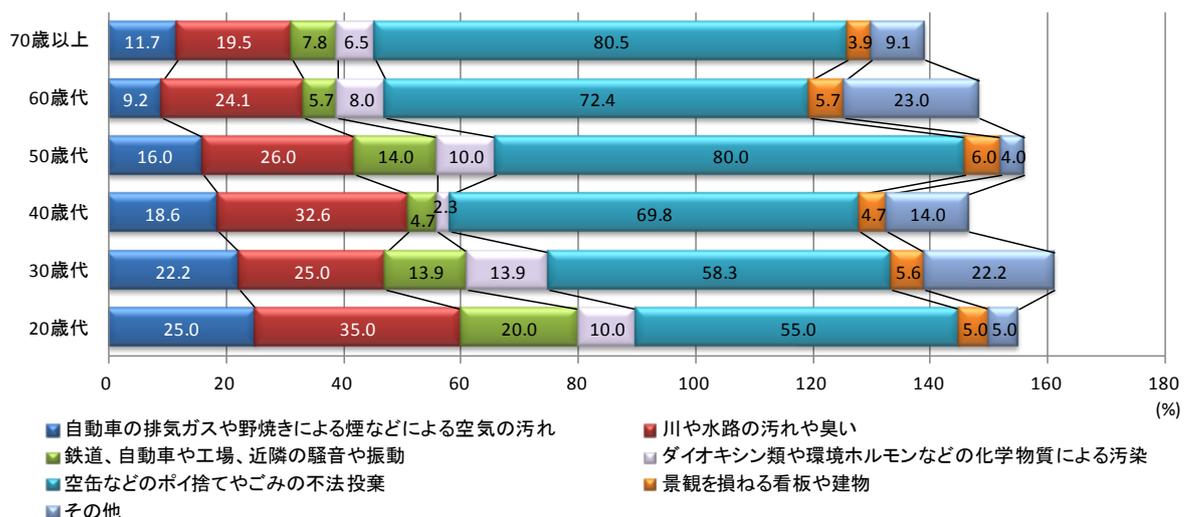


図 I-8 身近な環境で気にかかる問題（年齢別）

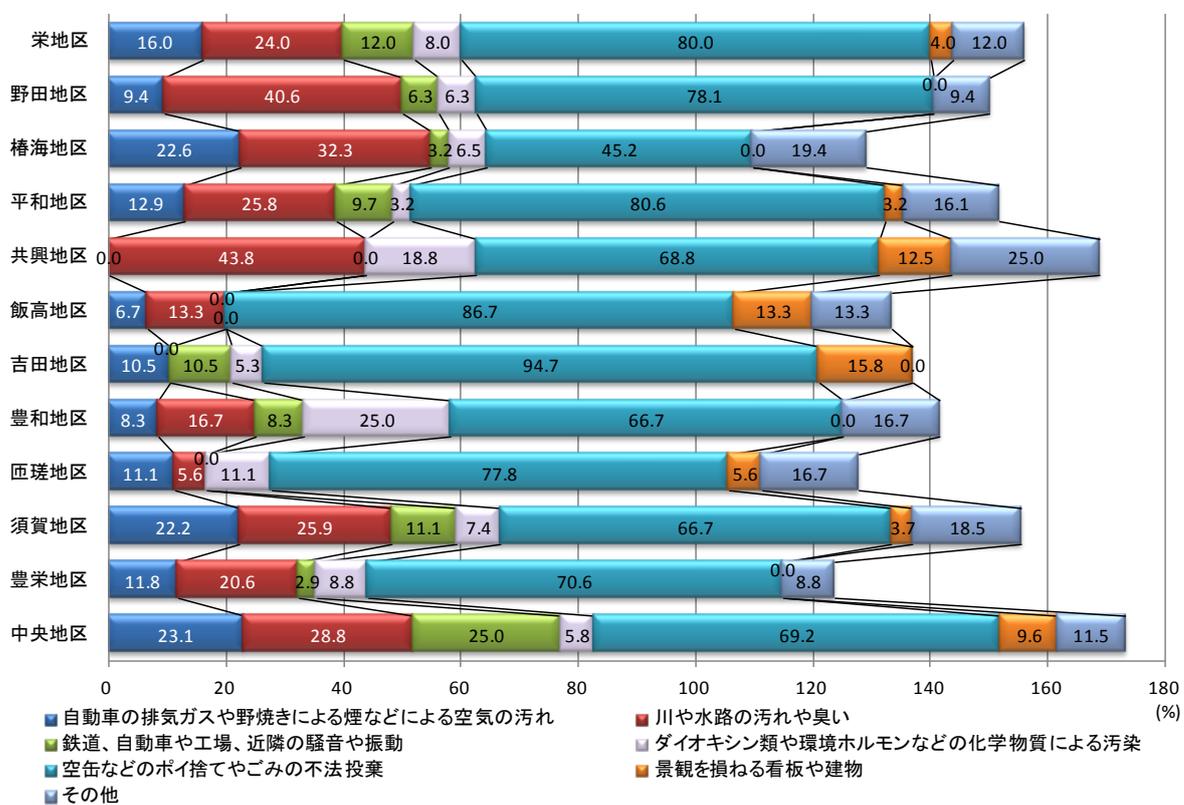


図 I-9 身近な環境で気にかかる問題（居住地区別）

#### ④身近な環境を改善するうえでの意識<問4>

身近な環境を改善するうえでの意識を単一回答で尋ねたところ、「今の規制の範囲で、環境の改善を進めるべきである」と回答した市民が6割弱と最も多く、「今の環境を改善できるなら、金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになってもかまわない」14.7%を合計すると、7割以上の市民が何らかの改善の必要を感じている。

一方で、金銭的な負担や不自由になることに抵抗を感じて改善を敬遠するとした市民も27%と4分の1強あった。

年齢別では20歳代が「規制などにより不自由さを感じることはかまわないが、今の環境を改善するために金銭的な負担などが多少でも増えることには抵抗がある」と「今の規制の範囲で、環境の改善を進めるべきである」がともに40%と拮抗しており、何らかの環境改善は必要であるものの、金銭的負担のない改善を望んでいることが窺える。

居住地区別では、豊和地区で「今の環境を改善できるなら、金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになってもかまわない」と「規制などにより不自由さを感じることはかまわないが、今の環境を改善するために金銭的な負担などが多少でも増えることには抵抗がある」がともに23.1%あり、不自由さを感じても改善を推進したいと感じている市民が5割弱いることがわかった。

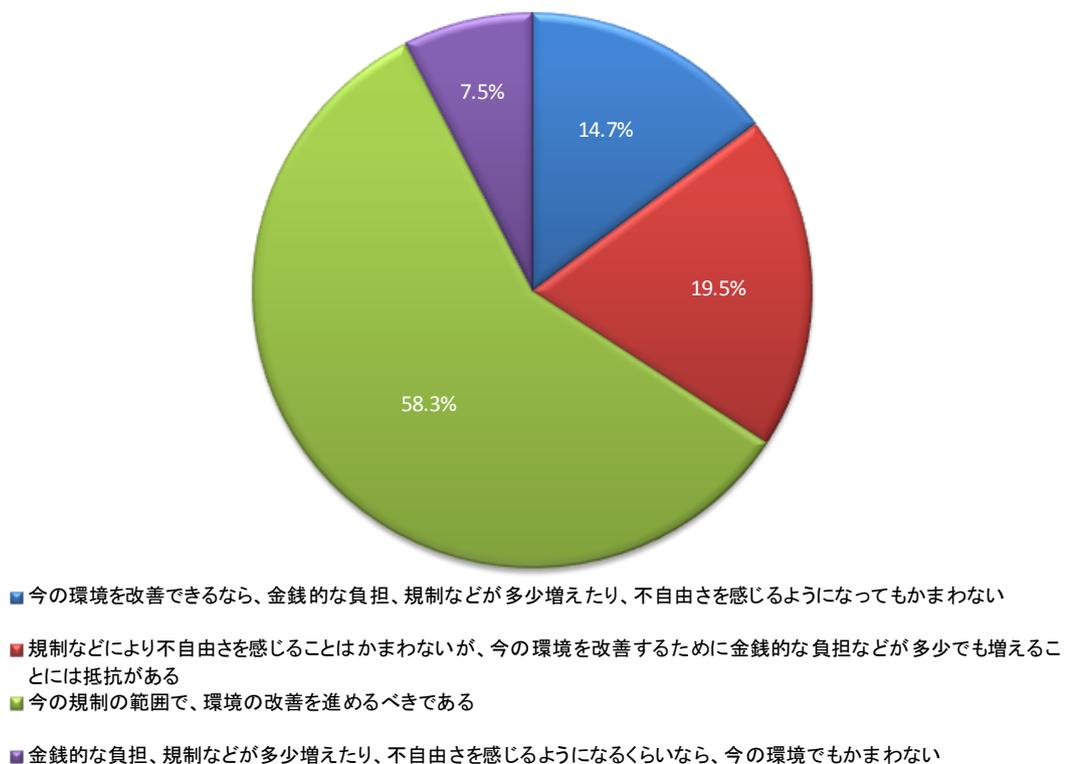


図 I-10 身近な環境を改善するうえでの意識（全体）

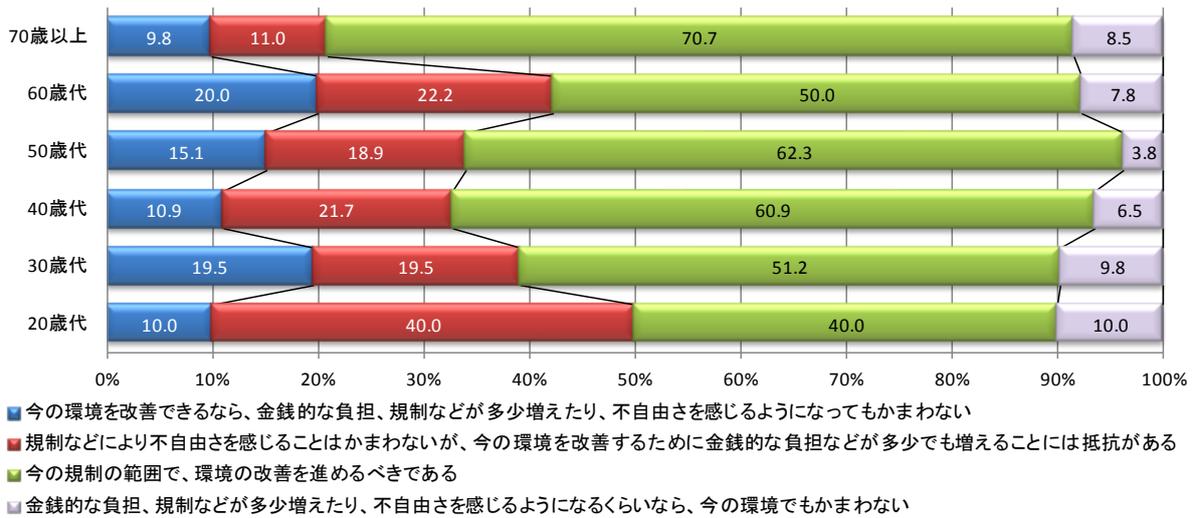


図 I-11 身近な環境を改善するうえでの意識（年齢別）

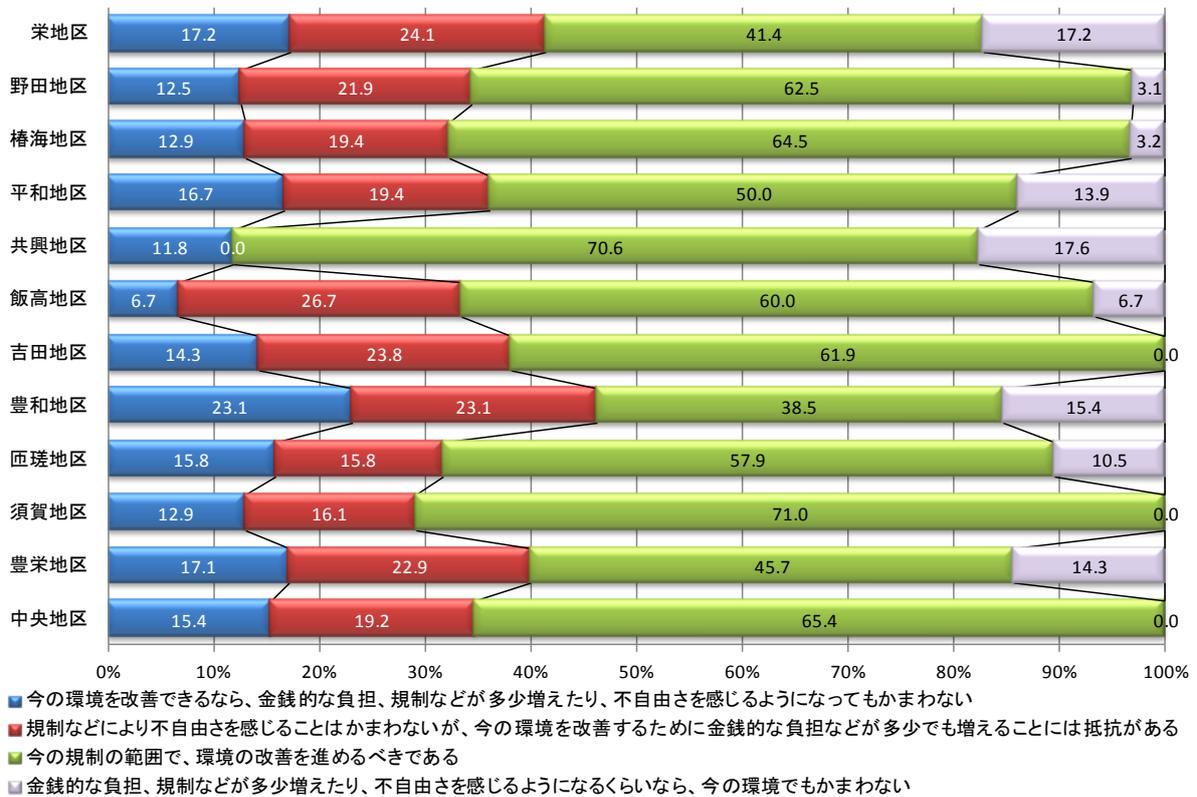


図 I-12 身近な環境を改善するうえでの意識（居住地区別）

### ⑤市の自然を守るため進めるべき取り組み<問5>

市の自然を守るための進めるべき取り組みについて、2つまで選んでもらったところ、「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止を進める」が55.2%と最も多く、次いで「市の自然環境の現状について、情報公開を進める」が30.4%であった。「自然や生き物について、調査や監視を実施する」は11.0%と最も少なく、次いで「自然保護のための規制や条例を強化する」が15.3%であった。

回答結果から、身近な場所での水質改善と行政の情報開示を望む声が多く、自然への調査や監視、自然保護を条例で規制することについての取り組みは、特に重視していないといえる。

年齢別では概ね年代が下がると「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止を進める」が高くなり、逆に「市の自然環境の現状について、情報公開を進める」は年齢が上がると高くなる傾向にあった。また、「行政の支援のもとに市民が主体となって、緑や生き物の保護活動を進める」は20歳代と70歳以上で比較的高く、それ以外の年代では比較的低い回答であった。

居住地区別では、野田地区と飯高地区、中央地区、豊栄地区の4地区で水質改善を望むと回答した市民が6割以上あった。また、匝瑳地区では「自然保護に関する市民学習会やPRなど、市民の保護意識を高める」と回答した市民が41.2%と最も高く、豊和地区と須賀地区では「行政の支援のもとに市民が主体となって、緑や生き物の保護活動を進める」が最も高い回答であった。

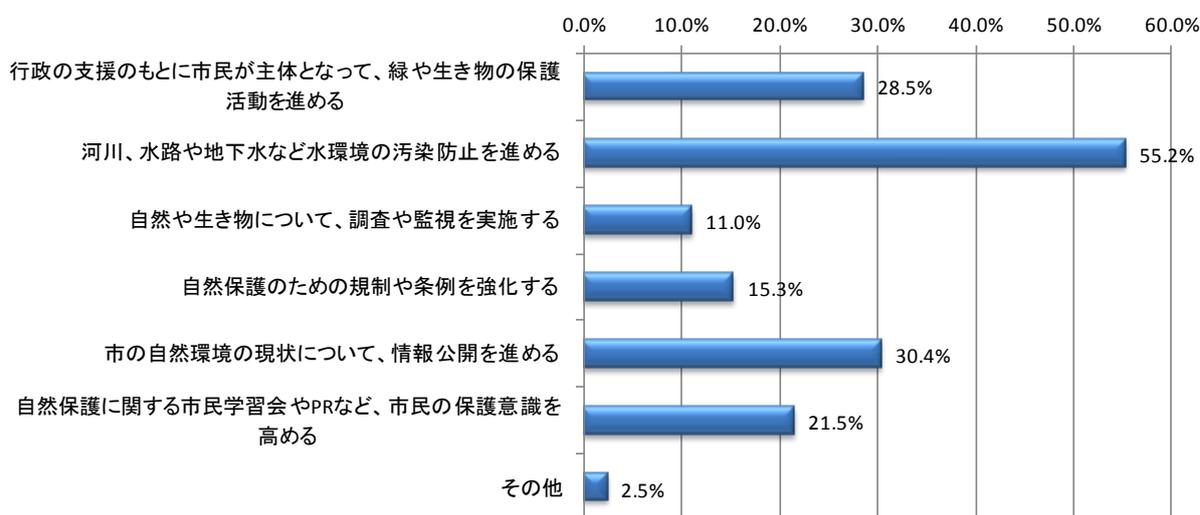


図 I-13 市の自然を守るため進めるべき取り組み（全体）

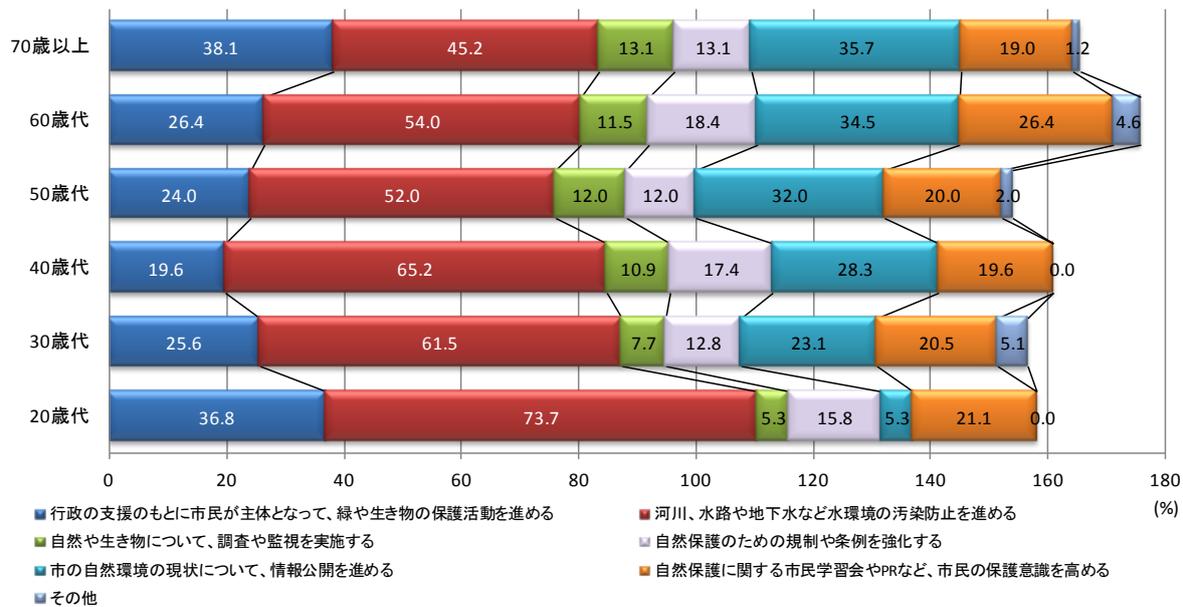


図 I-14 市の自然を守るため進めるべき取り組み（年齢別）

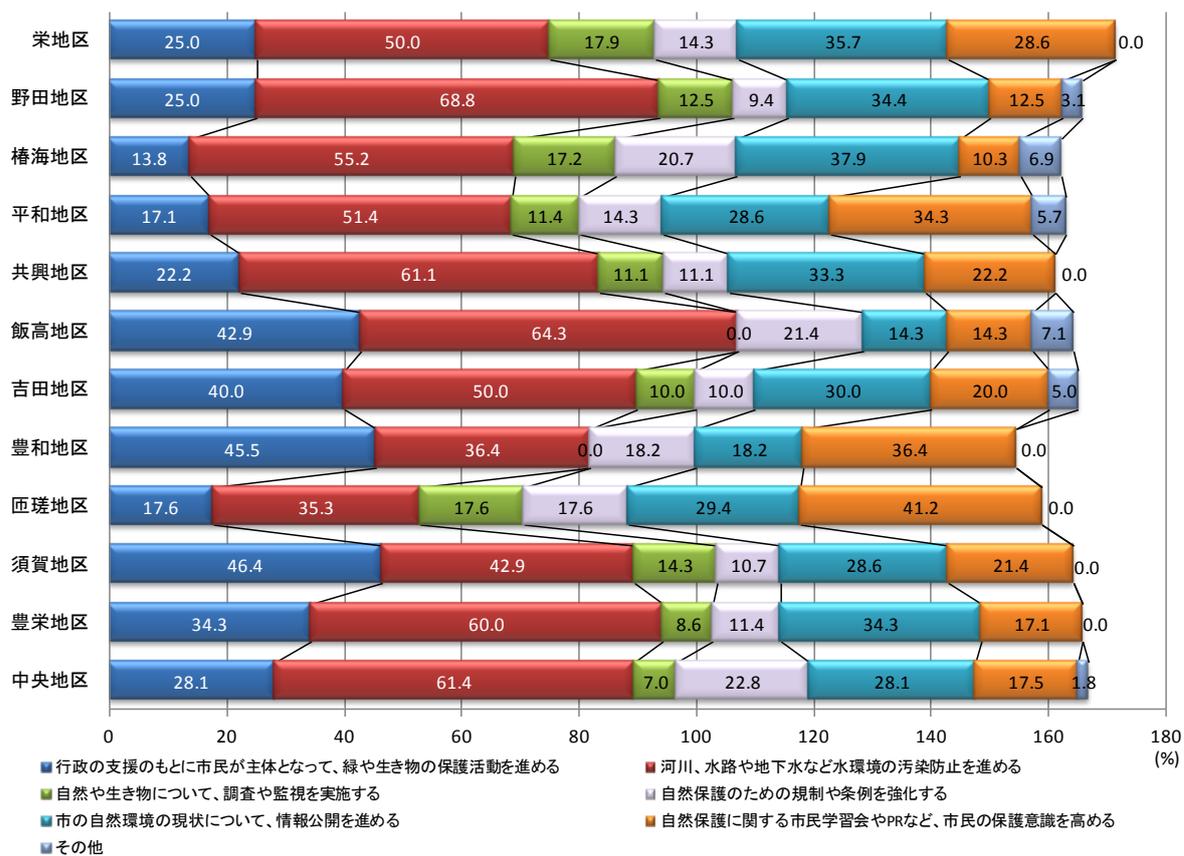


図 I-15 市の自然を守るため進めるべき取り組み（居住地区別）

## ⑥リサイクルや省エネルギーへの関心と実践<問6>

リサイクルや省エネルギーへの関心について単一回答で尋ねたところ、「関心あり」は77.6%、「関心ない」は22.4%と「関心あり」が大勢を占めているが、関心の有無に関係なくリサイクルや省エネルギーを日常生活で「実践している」のは80.5%と、多くの市民が実践していることがわかった。

年齢別では、関心の有無に関係なく日常生活でリサイクルや省エネルギーを実践しているのは60歳代と40歳代が高く、20歳代と30歳代で低い結果であった。特に20歳代では「実践している」が55%、「実践していない」が45%と拮抗している。同じく20歳代のリサイクルや省エネルギーへの関心は「ある」が「ない」をやや上回っている程度で、他の年代と異なる傾向がみられた。

居住地区別では椿海地区と吉田地区で「関心があり、日常生活で実践している」が8割以上と他の地区よりも高い結果であった。また、共興地区では「関心はないが、日常生活で実践している」と「関心無く、日常生活でも特に実践していない」を合わせると47.1%とリサイクルや省エネルギーへの関心が低いことがわかった。

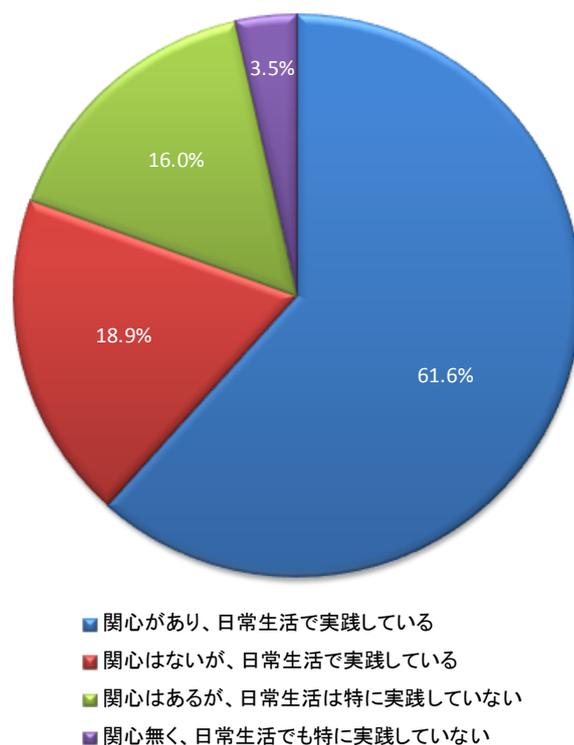


図 I-16 リサイクルや省エネルギーへの関心（全体）

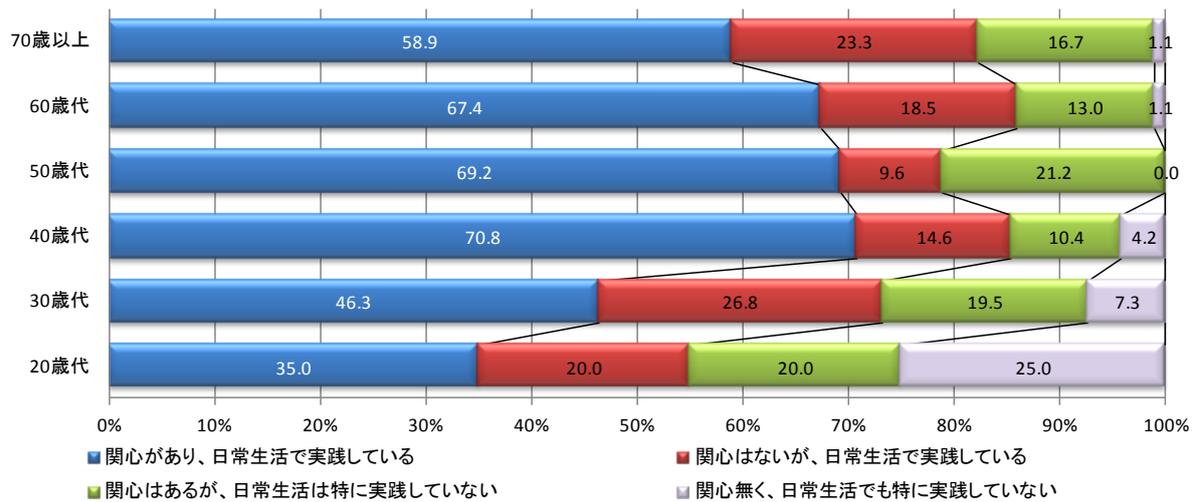


図 I-17 リサイクルや省エネルギーへの関心（年齢別）

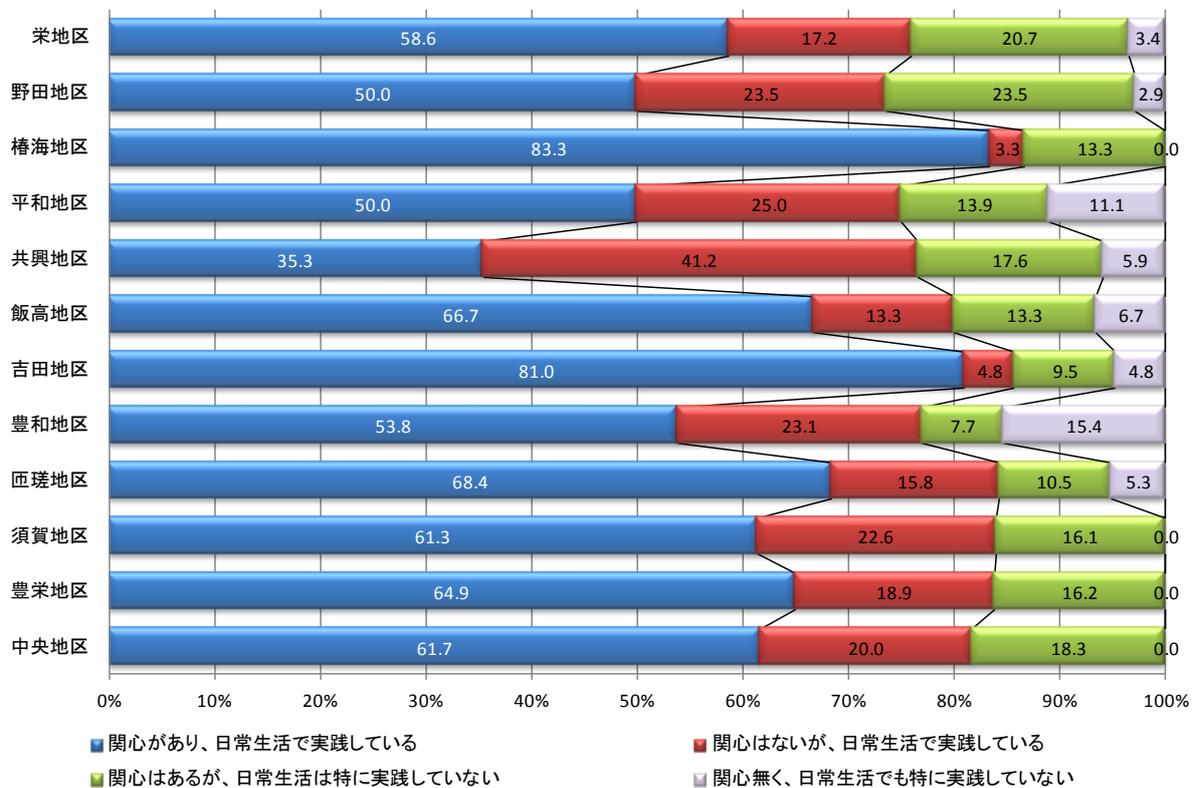


図 I-18 リサイクルや省エネルギーへの関心（居住地区別）

⑦日常生活で行っているリサイクルや省エネルギー活動<問7>

問6で関心の有無に関係なく日常生活でリサイクルや省エネルギー活動を実践していると回答した市民に、実際に行っているリサイクルや省エネルギー活動について複数回答で尋ねたところ、「リサイクルに協力し、ごみの減量に努めている」と「冷暖房の温度調節やこまめに電気を消すなど、節電に取り組んでいる」の2項目が7割を超えており、身近で実践可能な活動から取り組んでいることが窺える。

一方、「自家用車を使わずに、公共の交通機関や自転車などを利用し外出している」が6.1%と最も少なく、自家用車が市民の足として生活に欠かせないことが反映された結果となった。

年齢別では年齢が低いほど「買い物袋の持参や過剰包装を断っている」が高く、20歳代では63.6%に対し、70歳以上では35.1%と年齢が高くなるほど低くなっている。また、「リサイクルに協力し、ごみの減量に努めている」と回答したのは40歳代が85.4%と最も高く、他の年代が7割前後に対し高い結果であった。

居住地区別では飯高地区で「風呂の残り水を洗濯に使用するなど、節水に取り組んでいる」が58.3%と他の地区よりも高い結果であった。また、同じ飯高地区で「油や食べ残しを排水溝へ流さないようにしている」が75.0%と他の地区よりも比較的高く、家事におけるリサイクルや省エネルギー活動が盛んな地区であるようだ。

豊和地区と須賀地区では「冷暖房の温度調節やこまめに電気を消すなど、節電に取り組んでいる」が8割を超えており、省エネルギー活動に取り組んでいる地区であることが窺える。

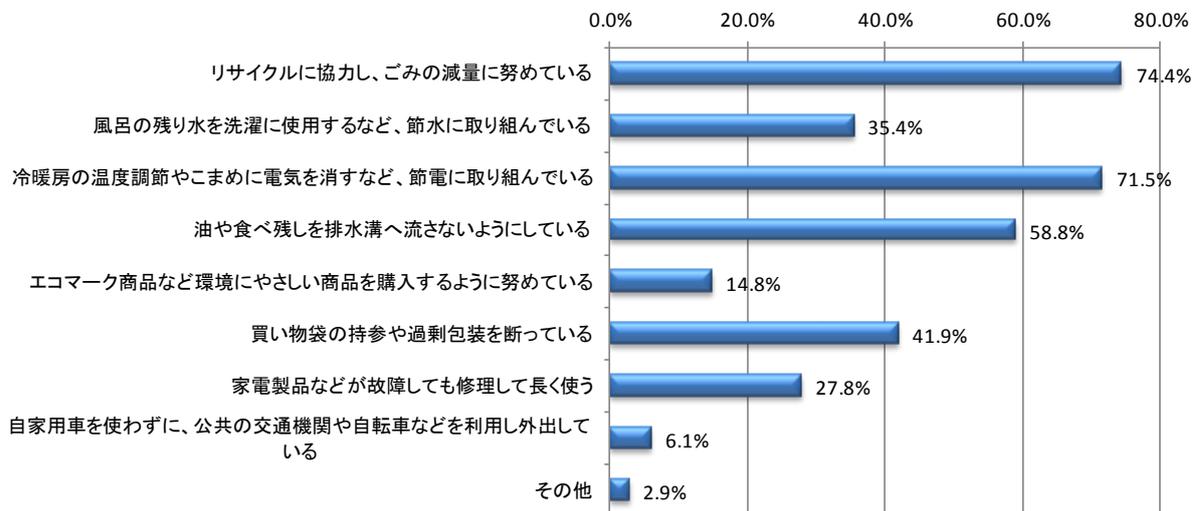


図 I-19 日常生活で行っているリサイクルや省エネルギー活動（全体）

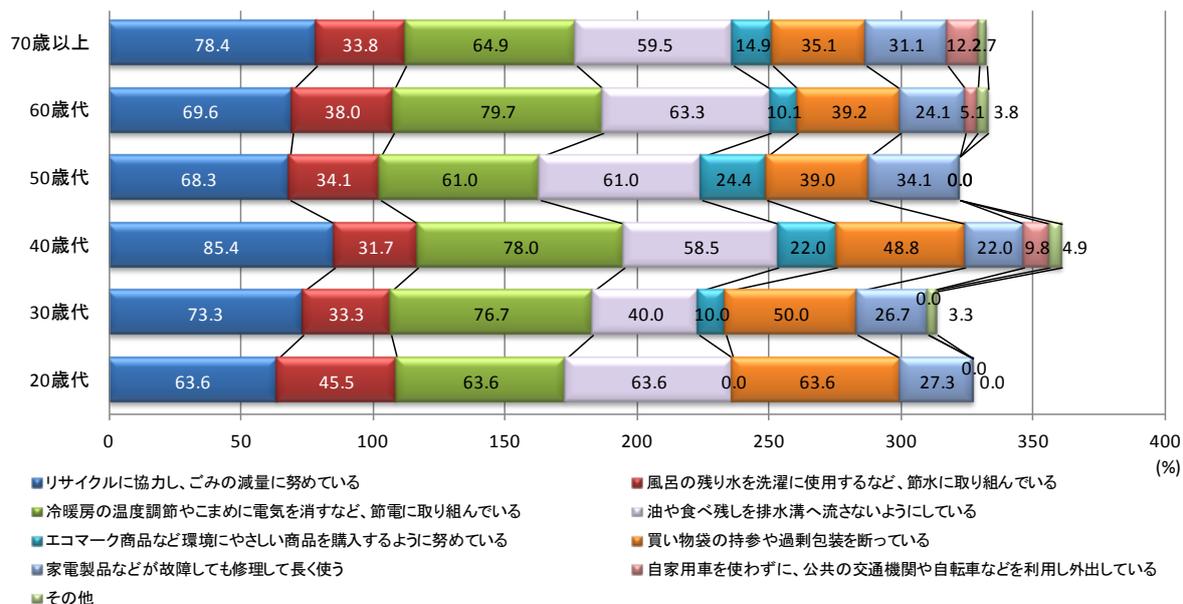


図 I-20 日常生活で行っているリサイクルや省エネルギー活動（年齢別）

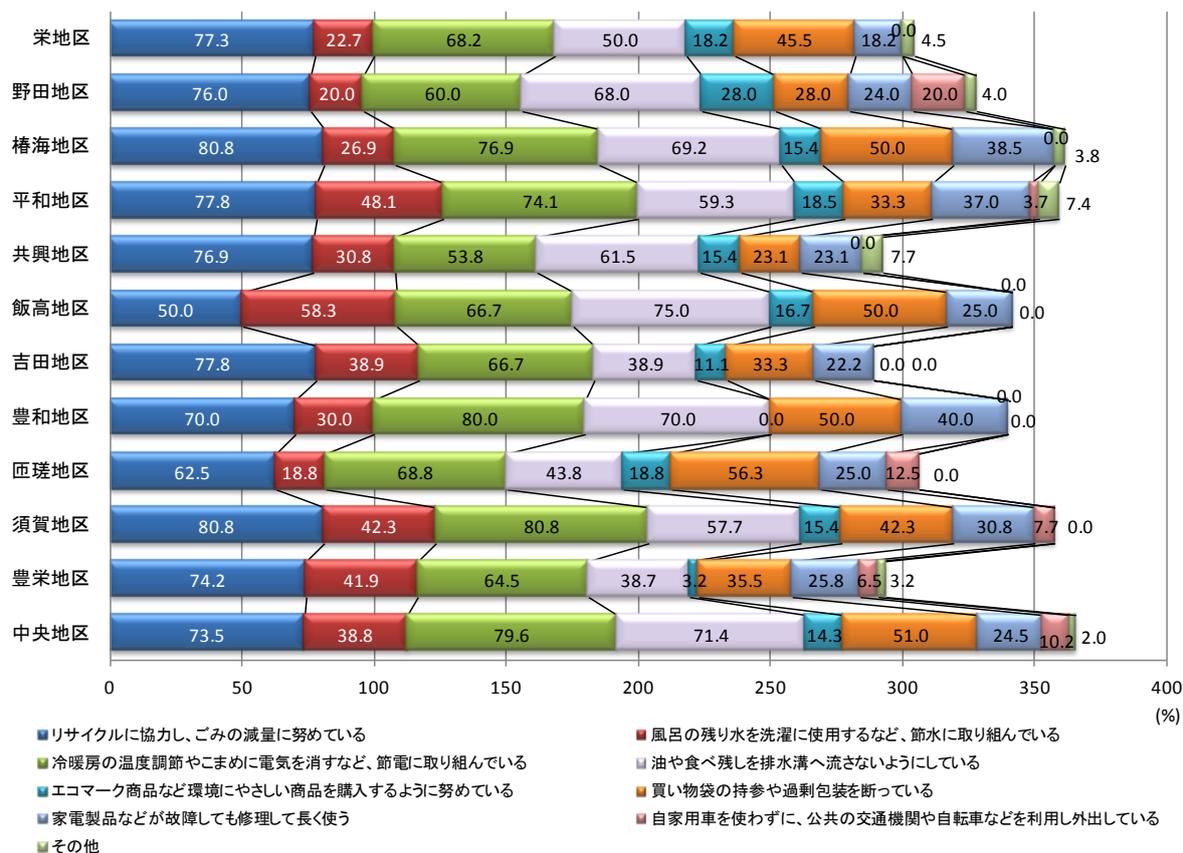


図 I-21 日常生活で行っているリサイクルや省エネルギー活動（居住地別）

### ⑧日常生活でリサイクルや省エネルギー活動を実践していない理由<問8>

問6で関心の有無に関係なく日常生活でリサイクルや省エネルギー活動を実践していないと回答した市民に、その理由を単一回答で尋ねた。

最も多い回答は「どのような取り組みをすればよいのか、わからないから」で、約半数の48.5%であった。これらの層には、取り組み内容を行政からの広報や地域活動などで情報周知できれば、日常生活でリサイクルや省エネルギー活動を実践することにつながる可能性があるといえる。

次いで回答が多かった「個人で取り組んでも、あまり効果はないと思うから」は22.7%で、この層ではリサイクルや省エネルギーに関しての意識改革が必要であるものと思われる。また、「面倒だから」16.1%、「不便な生活を送る必要はないと思うから」3.0%に対しても今後実践派に転換させるための情報発信や意識改革を働きかける必要がある。

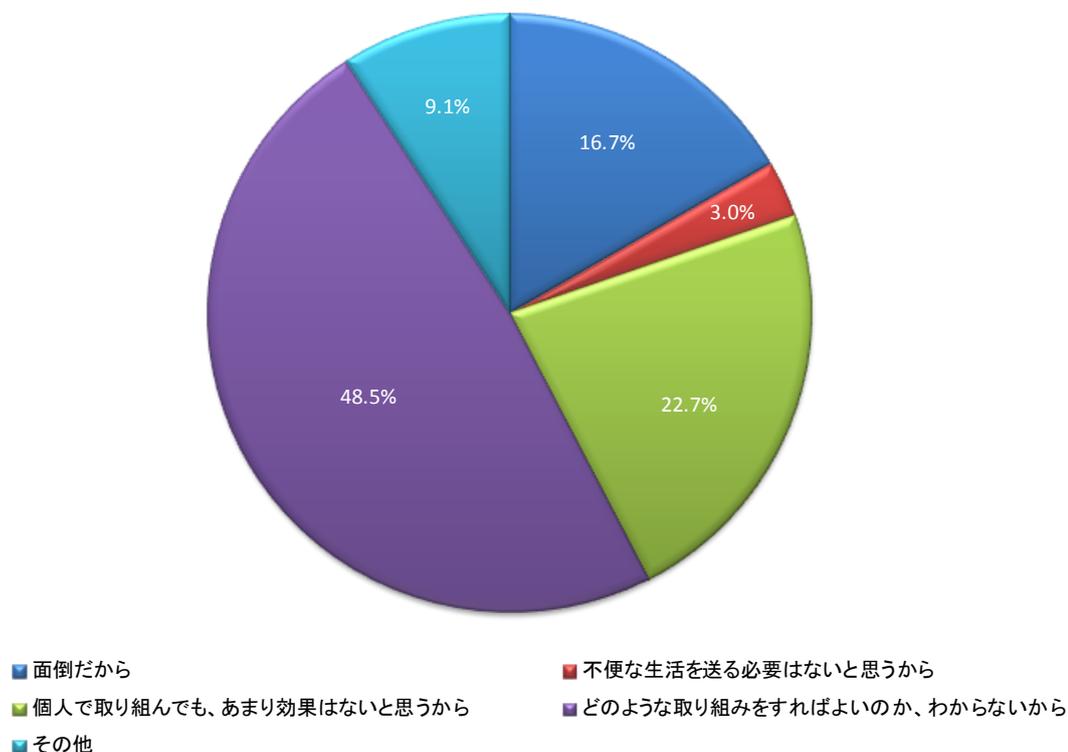


図 I-22 日常生活でリサイクルや省エネルギー活動を実践していない理由（全体）

⑨リサイクルや省エネルギーを進めるうえで重点的な取り組み<問9>

リサイクルや省エネルギーを進めるうえで重点的に取り組む内容について、2つまで選んでもらったところ、「ゴミの分別収集を強化し、資源の再利用を図る」が41.5%と最も高く、次いで「一人ひとりが節水、節電などに積極的に取り組む」の40.3%で、ごみの資源化・再利用によるリサイクルと、節水・節電などの省エネルギーに高い関心がある結果となった。

一方で、「企業や工場などが環境にやさしい商品の開発に積極的に取り組む」と「太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーの利用を進める」はそれぞれ7.0%、12.8%と低く、これらはリサイクルや省エネルギーを進めるうえで重視していない項目となっている。

年齢別では40歳代で「ゴミの分別収集を強化し、資源の再利用を図る」が26.3%と他の年代と比較して最も低かった。40歳代の重点的な取り組みとして高かった選択肢は「一人ひとりが節水、節電などに積極的に取り組む」で42.1%であった。また、20歳代では「正しいリサイクルや省エネの方法を広報やパンフレットで紹介する」を選択した割合が比較的高く、他の年代が10%や20%台に対し、36.8%あり、リサイクルや省エネルギー活動に対して広報活動が大切であると認識している。

居住地区別では吉田地区で「自治会などが古紙、空きビンなどの有価物の廃品回収を積極的に進める」が33.3%と吉田地区の中では最も高い回答であり、他の地区と比較しても自治会活動を通したリサイクルや省エネルギーを重視していることがわかる。また、須賀地区では「企業や商店などが再利用できる廃品の回収を積極的に進める」と回答した割合が「一人ひとりが節水、節電などに積極的に取り組む」と同じ39.3%と地区内でも他の地区と比較しても高い割合を示している。

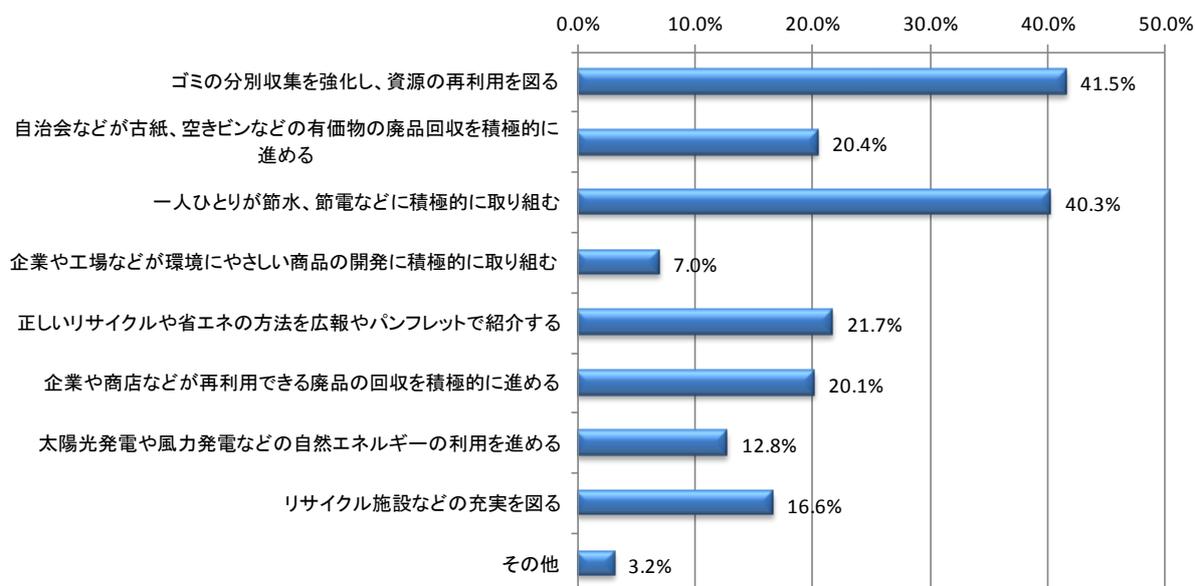


図 I-23 リサイクルや省エネルギーを進めるうえで重点的な取り組み（全体）

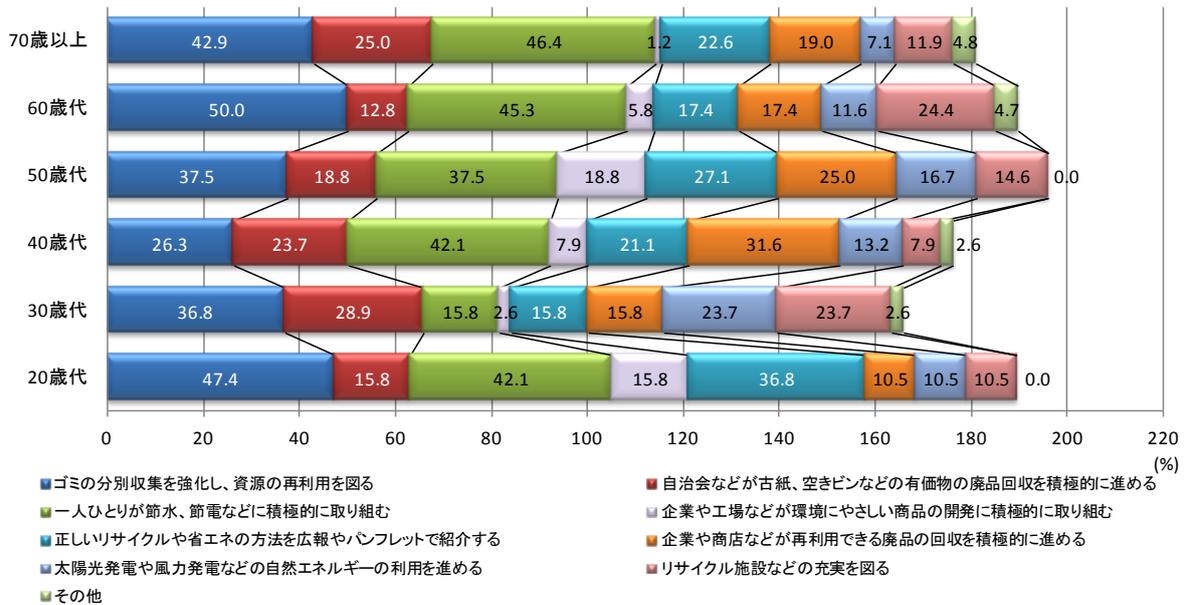


図 I-24 リサイクルや省エネルギーを進めるうえで重点的な取り組み（年齢別）

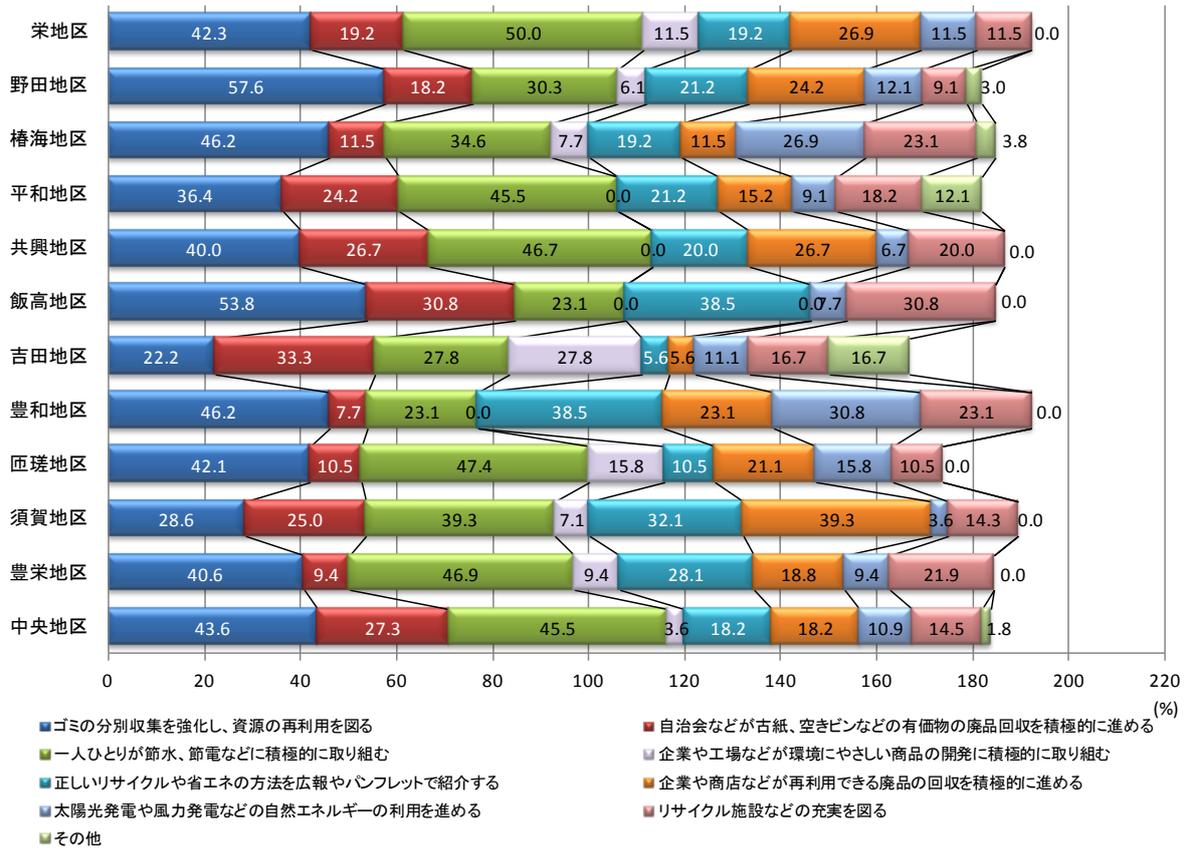


図 I-25 リサイクルや省エネルギーを進めるうえで重点的な取り組み（居住地区別）

### (3) 地球環境問題について

#### ①関心の高い地球環境問題<問10>

地球環境問題として、関心の高い地球環境問題を複数回答で尋ねたところ、「地球温暖化」が87.1%と関心が集まった。次に関心が集まったのは「発展途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害・環境破壊」「オゾン層の破壊」「世界的な森林の減少や砂漠化の進行」の3項目で、それぞれ44.9%、41.3%、40.1%と5割に達していない。これはCOP21などによる二酸化炭素削減に関する報道や、温暖化による異常気象などによって関心が高まっているものと思われる。

年齢別では30歳代で「地球温暖化」が8割を下回ったものの、30歳代の傾向は全体の傾向とほぼ同じ傾向であった。20歳代では「地球温暖化」に次いで「海洋の汚染」が5割以上あり、他の年代と関心がやや異なる傾向がみられた。

居住地区別では、豊和地区で「オゾン層の破壊」が76.9%と、他の地区では高くても野田地区の48.6%であるのに対し、際だって高い関心であることを示している。また、椿海地区と豊栄地区では「世界的な森林の減少や砂漠化の進行」と回答が5割を超えており、「オゾン層の破壊」よりも高い関心となっている。

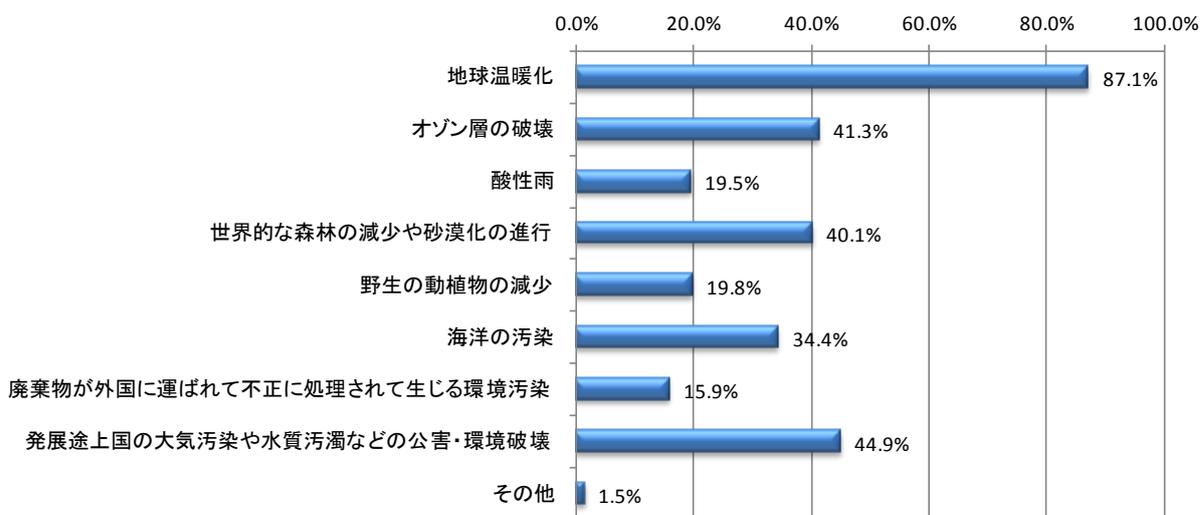


図 I-26 関心の高い地球環境問題（全体）

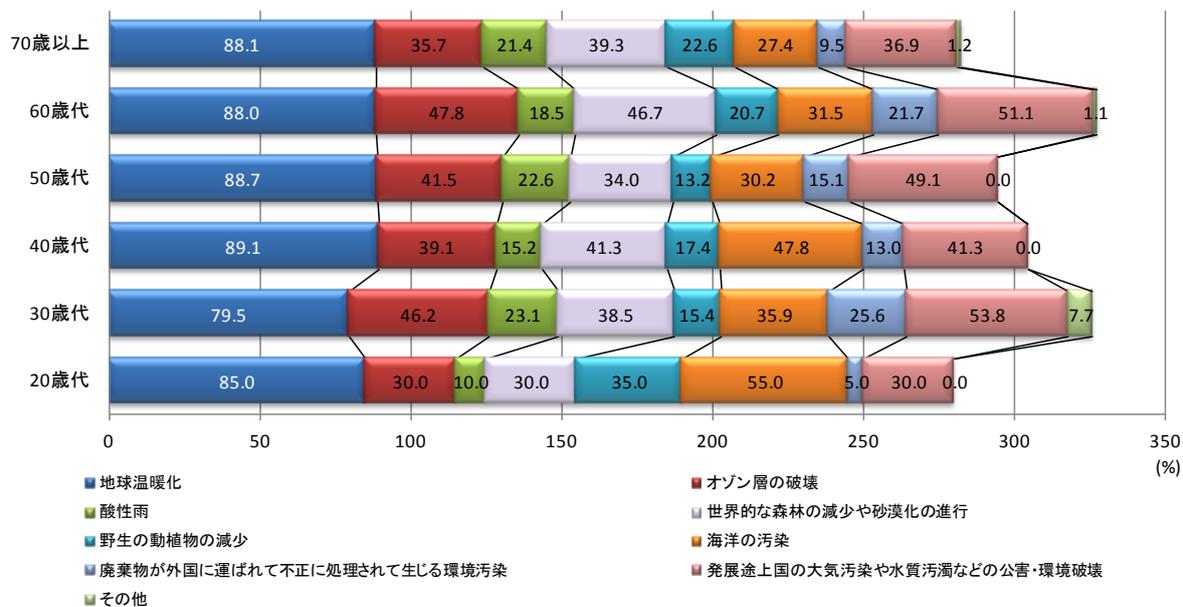


図 I-27 関心の高い地球環境問題（年齢別）

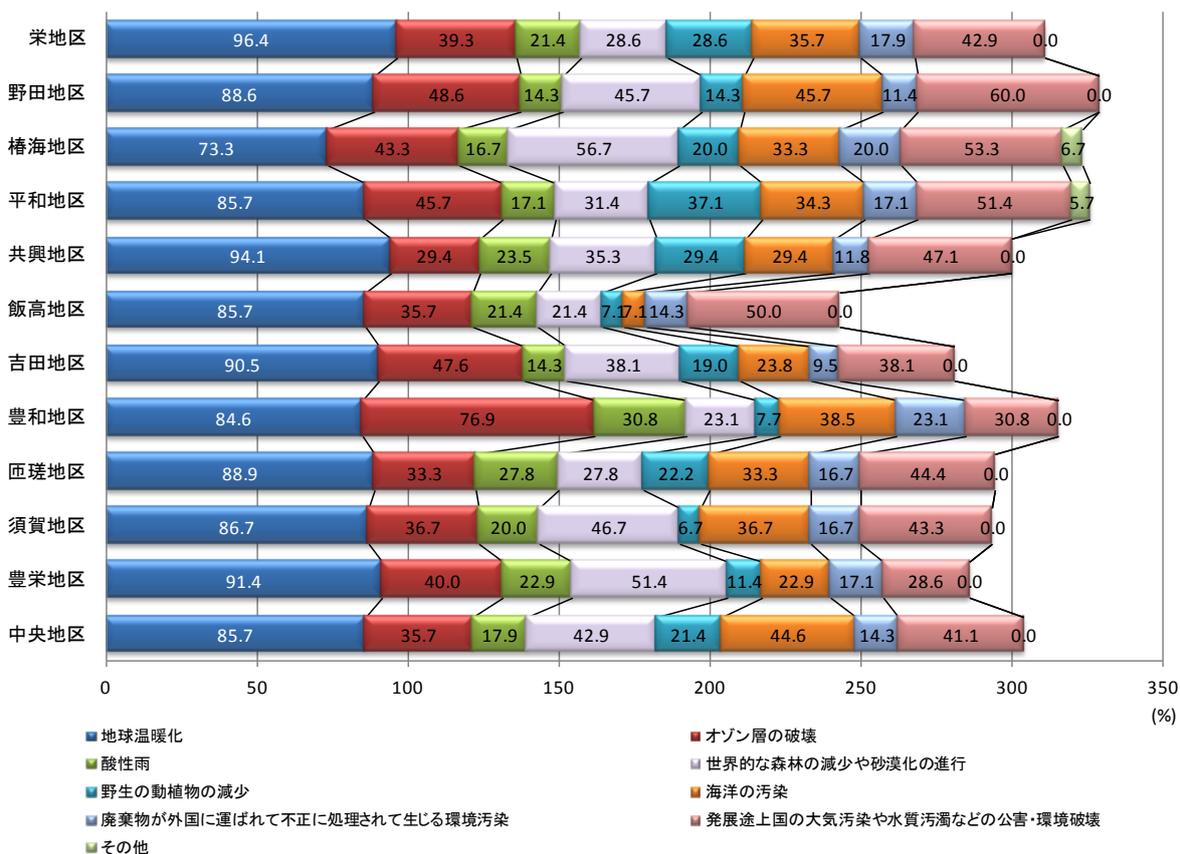


図 I-28 関心の高い地球環境問題（居住地区別）

## ②地球環境問題に貢献できること<問11>

地球環境問題に貢献できることについて2つまで回答してもらったところ、「日常生活での節電に気をつける」「不用品はリサイクルに回したり、できるだけゴミを出さないようにする」の2項目がそれぞれ84.7%、62.4%と高くそれ以外の項目は3割に達していなかった。特に「自家用車を控え、電車やバスなどの公共交通機関を利用する」「ボランティアとして、環境保護活動や技術支援などに参加する」「環境緑化基金や野生生物保護団体などに募金する」はいずれも1割に達していない。

年齢別でも全体の傾向を反映しているが、特に30歳代では「日常生活での節電に気をつける」が92.3%と他の年代が80%台に対し、高い結果となっている。節電することで電気料金の節約を兼ねることが要因と思われる。また、40歳代では「自家用車を控え、電車やバスなどの公共交通機関を利用する」と回答した市民が13.6%おり、20歳代を除く他の年代が1割に達していない事と比べ異なる傾向を示している。

居住地区別では豊和地区で「環境にやさしい製品を購入する」が5割を超えており、他の地区と比較して貢献できる項目に差異がみられた。また、共興地区でも5割には満たないものの、この項目を選択した市民が46.7%おり、この2地区は他の地区と異なる傾向を示している。

匝瑳地区と豊栄地区の2地区で「自家用車を控え、電車やバスなどの公共交通機関を利用する」が1割を超えており、日常の足として生活に欠かせない道具である自家用車の利用を控えることで、地球環境問題に貢献しようとする意識が比較的高いものと思われる。

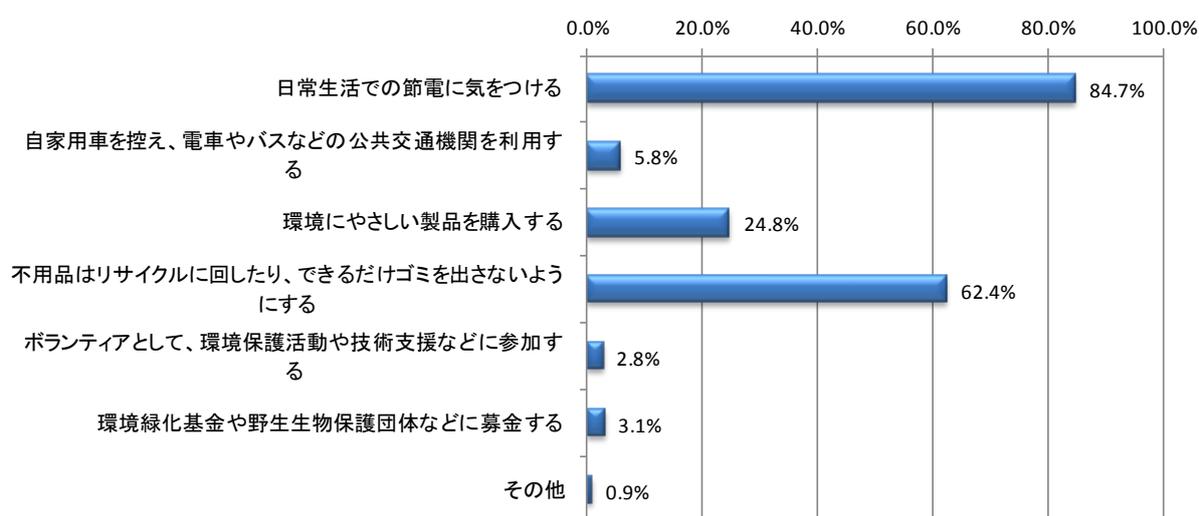


図 I -29 地球環境問題に貢献できること（全体）

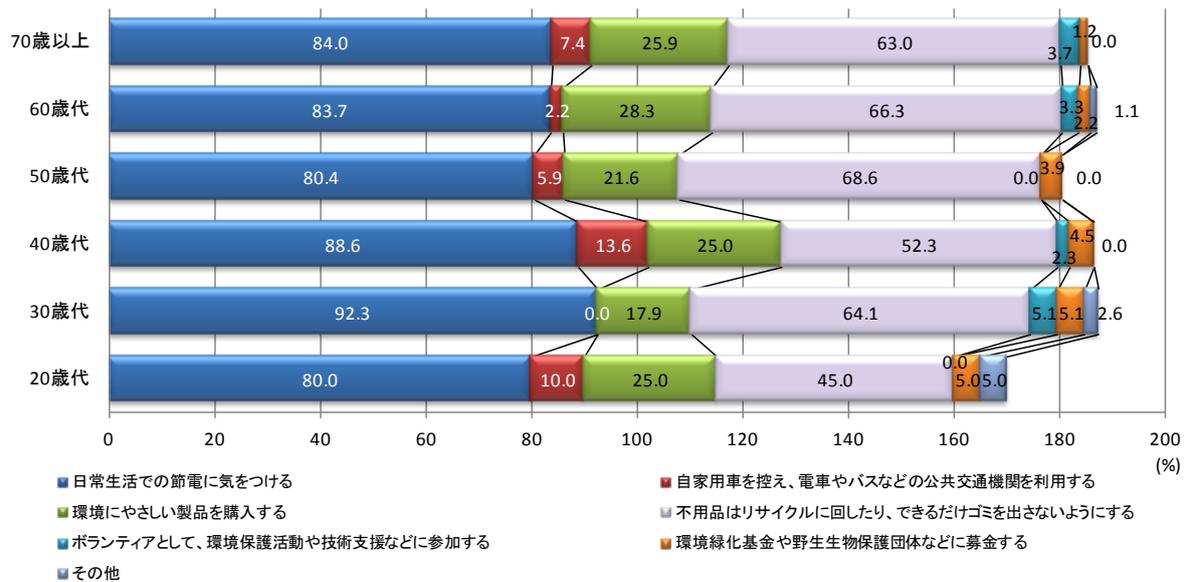


図 I-30 地球環境問題に貢献できること（年齢別）

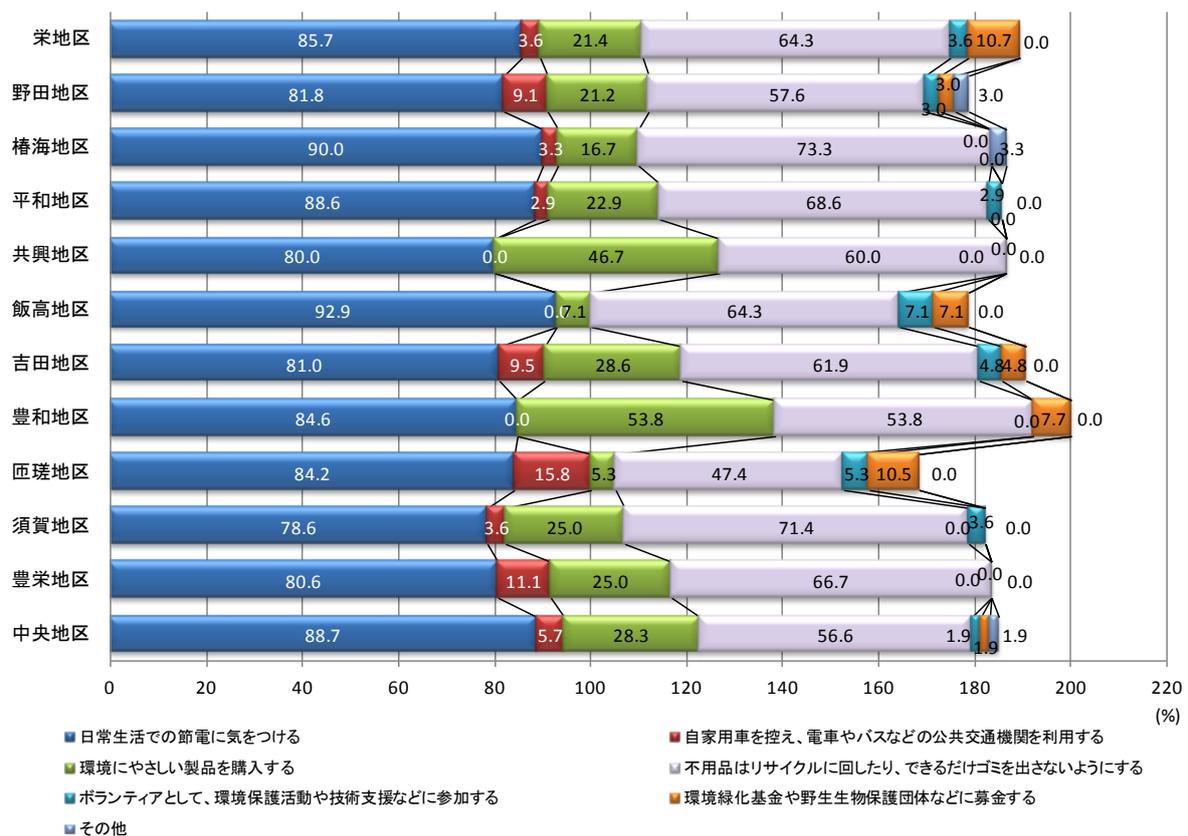


図 I-31 地球環境問題に貢献できること（居住地区別）

#### (4) 環境づくりへの参加

##### ①市民の自主的な環境づくり活動への参加意向<問 12>

自主的な環境づくり活動への参加意向を単一回答で尋ねたところ、「ぜひ参加してみたい」は 1.7%に留まったが、「時間や都合があれば参加してみたい」「活動内容によっては参加してみたい」と条件付きで参加意向のある市民は合わせて 71.0%であった。条件付きであることは参加しない理由にもなるため、自主的な環境づくりに向けた取り組みには工夫が必要である。また、「参加したいとは思わない」市民も 3割弱いることがわかった。

年齢別では 50 歳代、30 歳代、20 歳代で「ぜひ参加してみたい」が皆無で、特に 20 歳代では 4割が「参加したいとは思わない」と回答している。また、70 歳以上でも 4割弱が「参加したいとは思わない」と回答しているが、これは体力的なことが原因と思われる。

居住地区別では、平和地区、共興地区、飯高地区、豊和地区、匝瑳地区、中央地区で「是非参加してみたい」が皆無であった。また、「参加したいとは思わない」が 4割を超えた地区は栄地区と吉田地区の 2 地区であったが、吉田地区では「是非参加してみたい」が 4.8%おり、居住地区別では最も高かった。

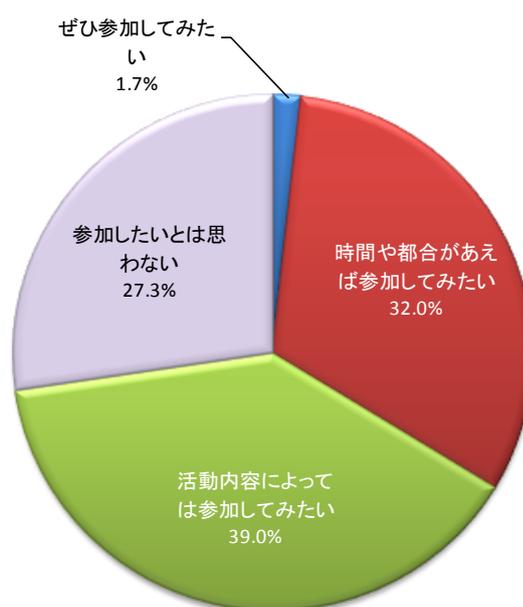


図 I-32 市民の自主的な環境づくり活動への参加意向（全体）

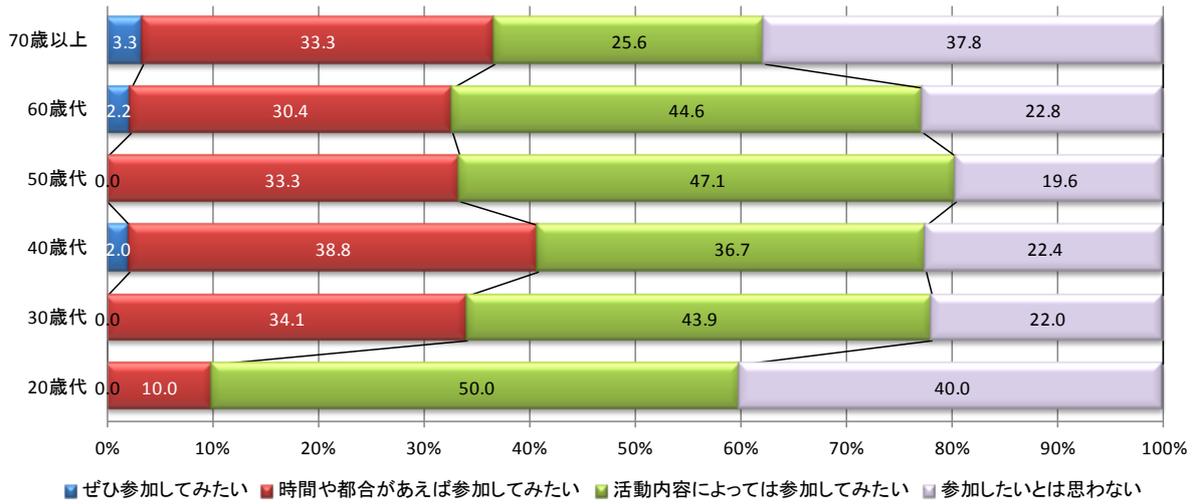


図 I -33 市民の自主的な環境づくり活動への参加意向（年齢別）

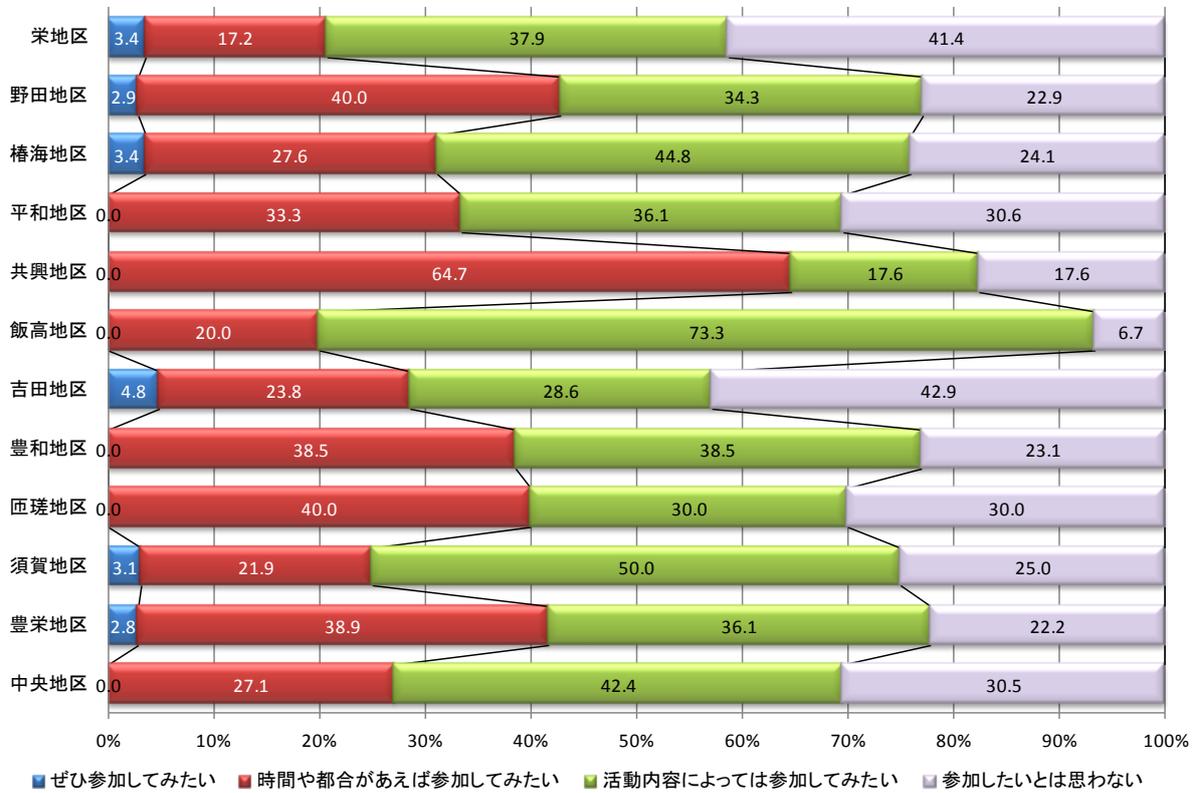


図 I -34 市民の自主的な環境づくり活動への参加意向（居住地区別）

## ②市民の環境づくりへの参加を促すうえでの行政の重点的な取り組み<問 13>

問 12 で自主的な環境づくり活動への参加意向で参加してみたい、条件付きであるが参加してみたいと回答した人に、環境づくりへの参加を促すうえでの行政の重点的な取り組みについて2つまで選んでもらったところ、「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開を進める」が最も高く46.9%であったが、5割に達しない回答状況となった。次いで「自主的に環境問題に取り組む企業や組織、サークル等を行政が積極的に支援する」と「自治会や子供会が行う美化運動などの活動を活発にする」が約3割であった。

年齢別では「環境問題に関する講演会や学習講座を開く」が各年代とも10～20%回答があったが、20歳代では回答する者がいなかった。また、30歳代では「自主的に環境問題に取り組む企業や組織、サークル等を行政が積極的に支援する」が50%と30歳代のなかでは最も高く、他の年代と比較しても高い結果であった。

居住地区別では飯高地区で「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開を進める」が71.4%と他の地区よりも特に高い結果であった。また、豊和地区では自主的に環境問題に取り組む企業や組織、サークル等を行政が積極的に支援する」が50%あり、他の地区と比較して高い結果であった。

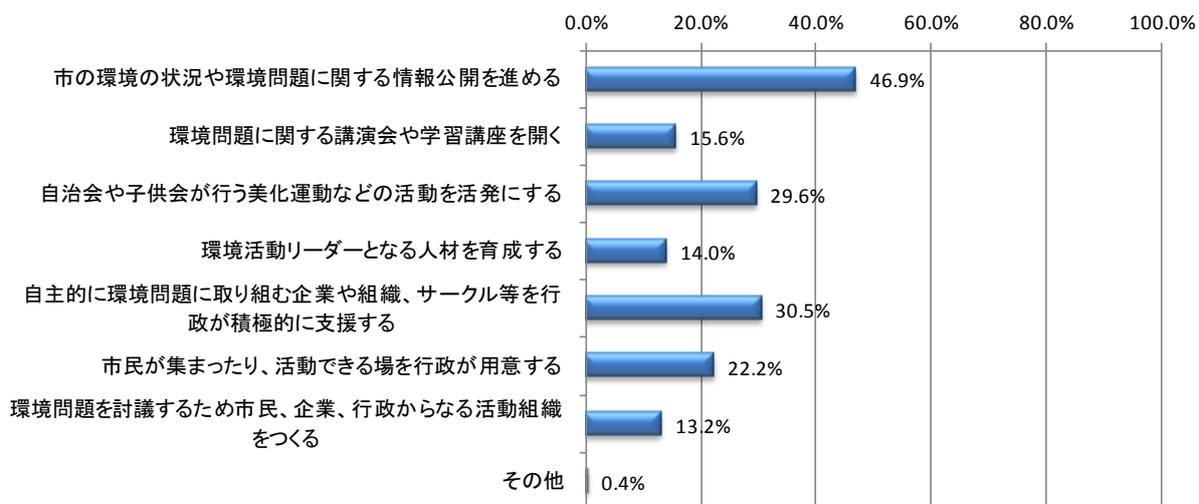


図 I-35 市民の環境づくりへの参加を促すうえでの行政の重点的な取り組み（全体）

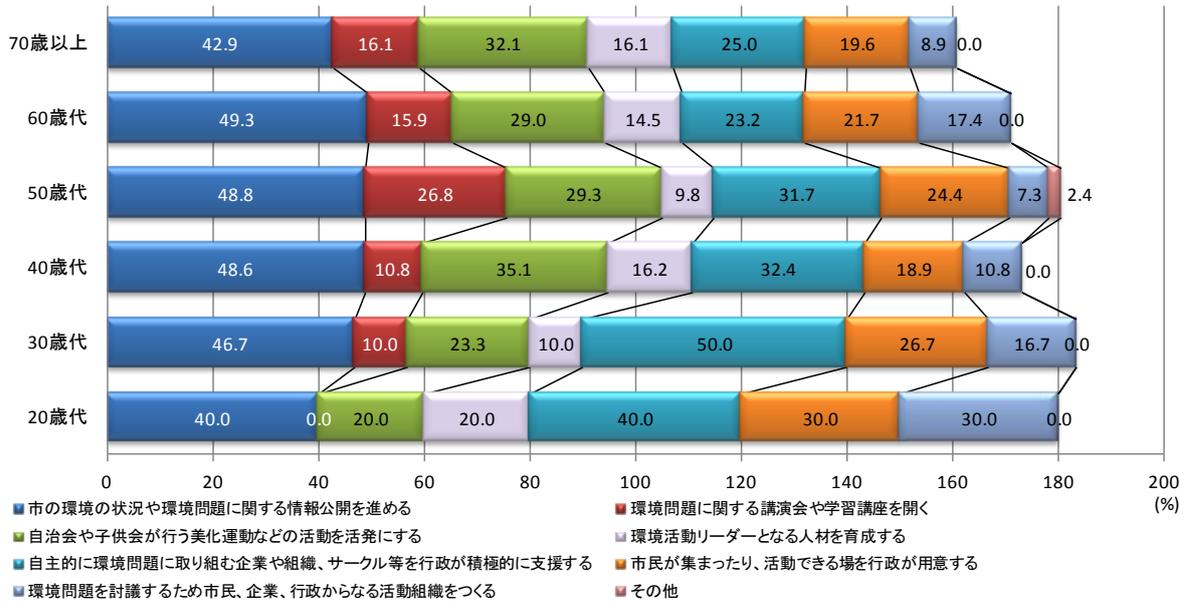


図 I -36 市民の環境づくりへの参加を促すうえでの行政の重点的な取り組み（年齢別）

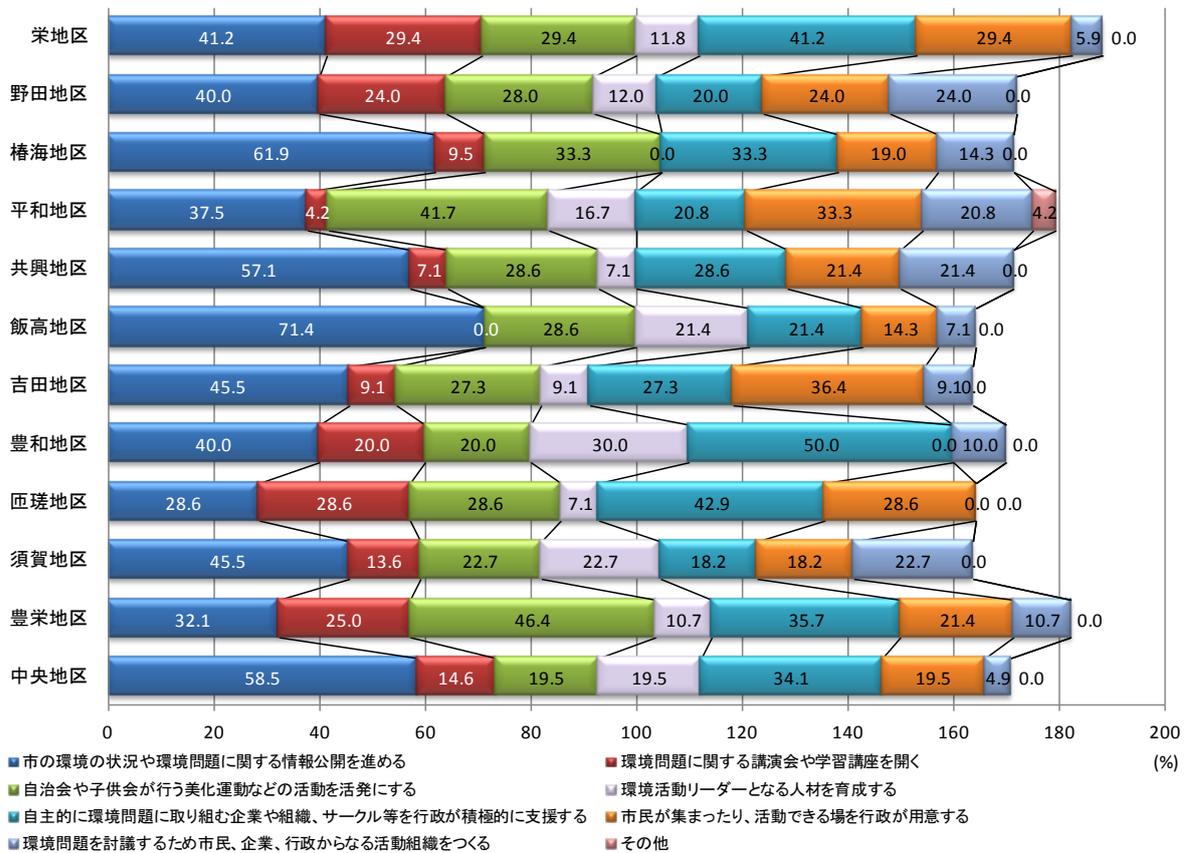


図 I -37 市民の環境づくりへの参加を促すうえでの行政の重点的な取り組み（居住地区別）

### ③市民の環境づくりに参加したいと思わない理由<問 14>

問 12 で「参加したいと思わない」と回答した人にその理由を単一回答で尋ねたところ、「体力的に無理だと思う」が 56.4%と最も高かった。次いで、「多忙」を理由にした人が 28.7%であった。

「体力的に無理」を選択したのは年齢が上がるごとに高くなり、年齢が低くなるごとに「多忙」の割合が高くなっている。特に働き盛りの 40 歳代では 8 割が「多忙」を理由としている。

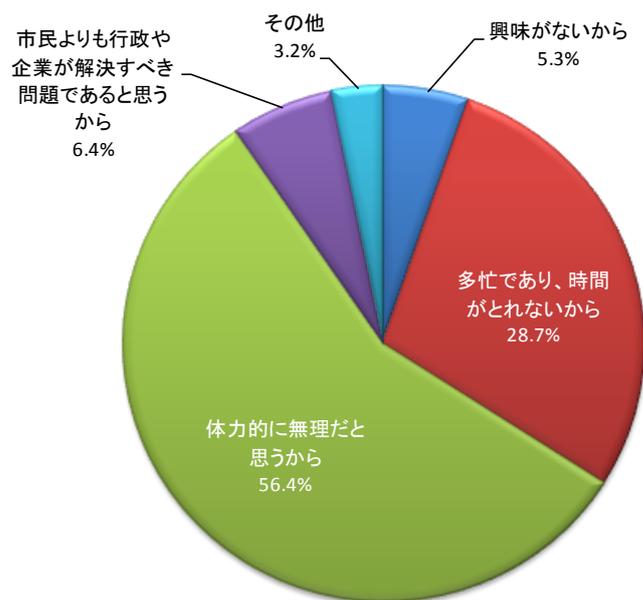


図 I -38 市民の環境づくりに参加したいと思わない理由（全体）

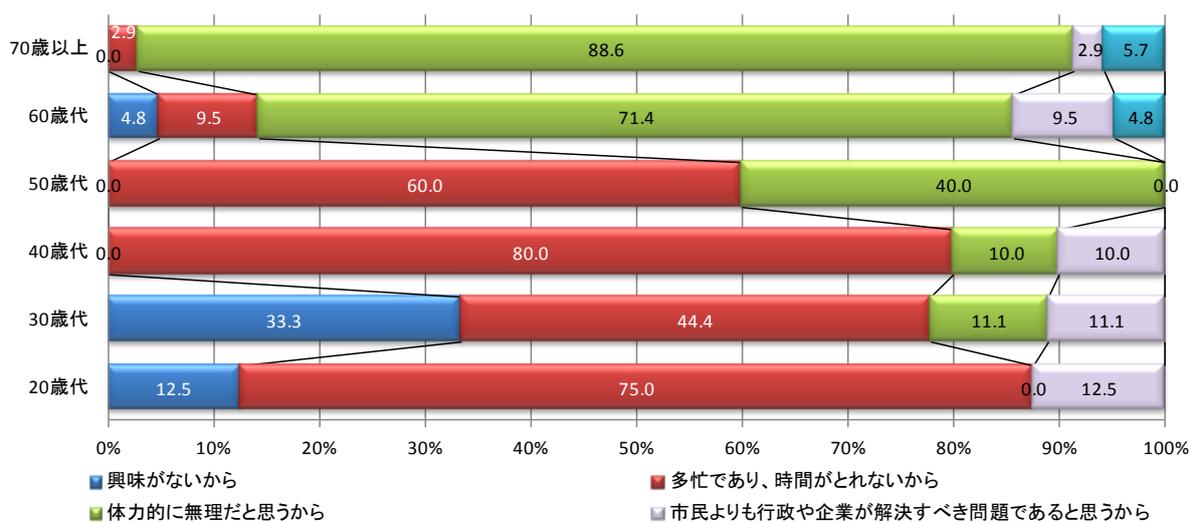


図 I -39 市民の環境づくりに参加したいと思わない理由（年齢別）

## (5) 今後の匝瑳市の環境行政

### ①市の環境を守り、改善していくための役割分担<問 15>

今後の環境行政について、改善していくための役割分担を単一回答で尋ねたところ、「市民、事業者、行政がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」が最も高く、57.4%と半数以上の市民がそれぞれの立場が責任を果たすことを選択している。次いで高かったのは「行政が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」で24.3%であった。

年齢別では年齢が高くなるごとに「市民、事業者、行政がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」を選択する割合が多くなり、逆に年齢が下がるごとに「行政が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」が高くなり、若年層はどちらかという行政主導型を望んでいると読み取れる。

居住地区別では吉田地区で「行政が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」と「市民や事業者が主体となって環境を守るための活動を行い、行政はその支援をする」が23.8%で拮抗している。また、匝瑳地区では「環境を破壊している個人や事業者が責任もって環境を守る」が26.3%と匝瑳地区の中では2番目に高い割合であった。

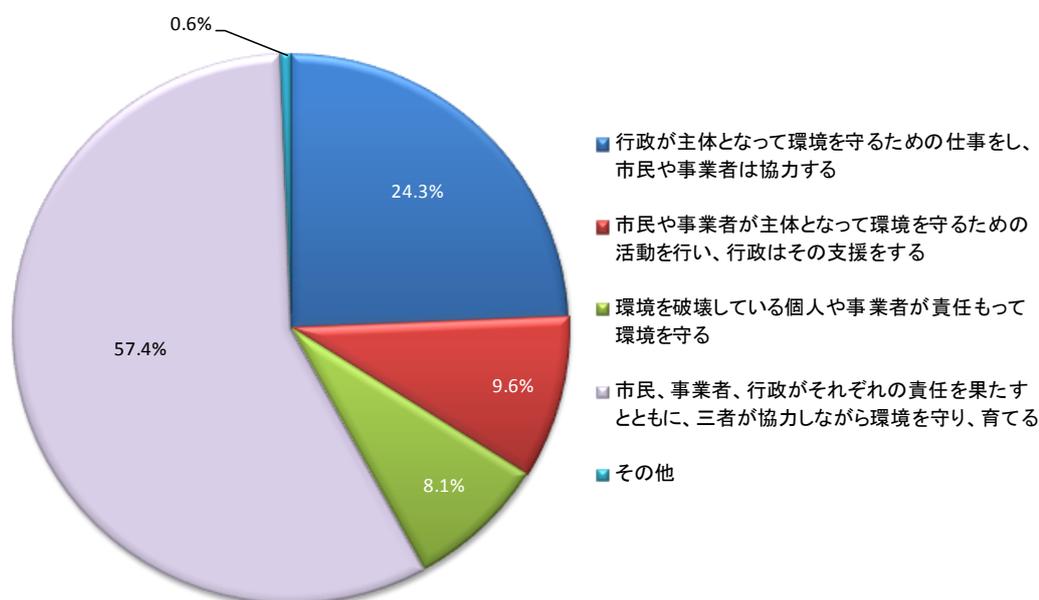


図 I-40 市の環境を守り、改善していくための役割分担（全体）

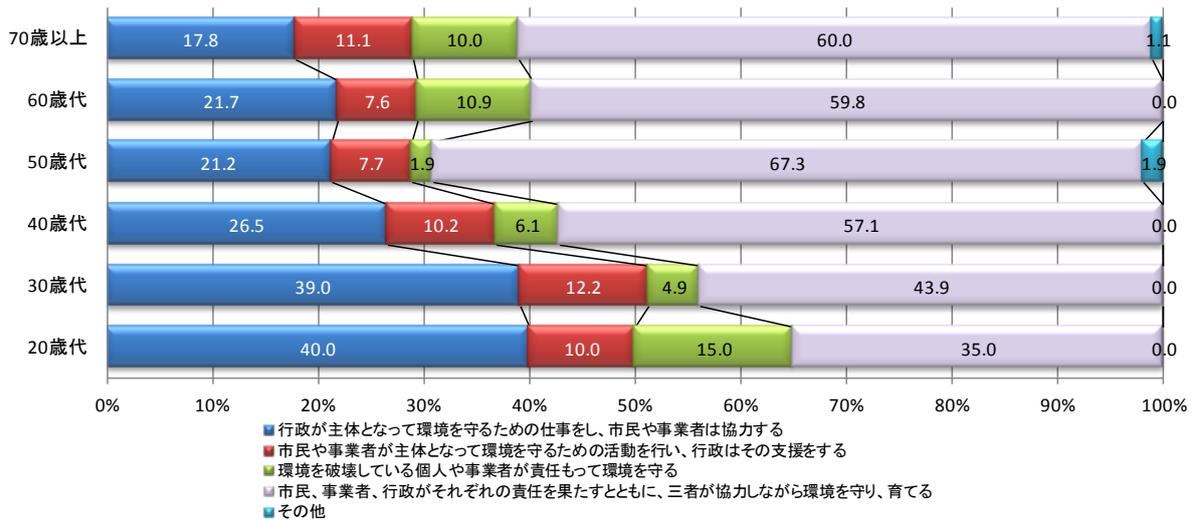


図 I-41 市の環境を守り、改善していくための役割分担（年齢別）

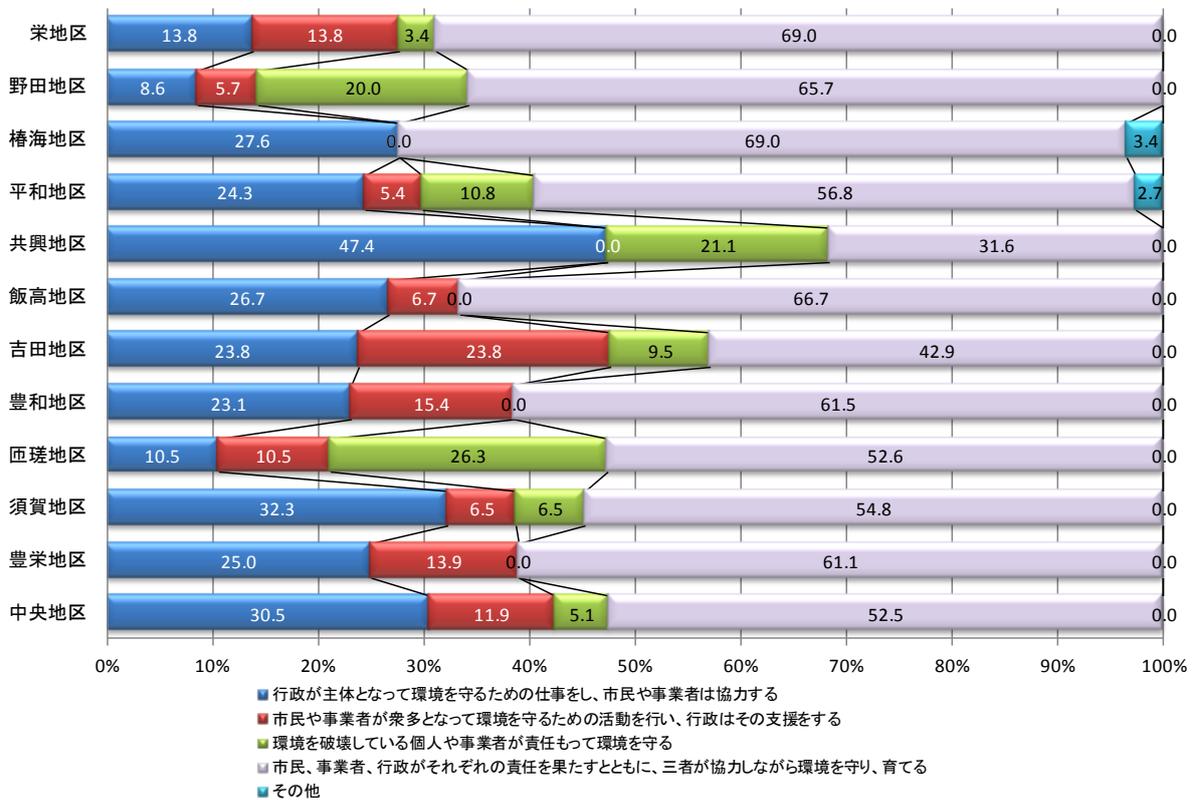


図 I-42 市の環境を守り、改善していくための役割分担（居住地区別）

②市が特に優先して取り組むべき環境施策<問 16>

行政が優先して取り組む環境施策について3つまで選んでもらったところ、「ごみの不法投棄に対する監視を充実する」が56.8%と最も高かった。これは問3の回答で多かった「空缶などのポイ捨てやごみの不法投棄」が身近な環境問題となっていることを反映した結果であるといえる。次いで「河川や水路の水質浄化や汚染防止を進める」が43.8%と高く、問3での回答結果を反映している。

年齢別では「ごみの不法投棄に対する監視を充実する」が年齢と比例して高くなる傾向があり、年齢が高くなるに従って優先してほしい施策となっている。

居住地区別では豊和地区で「緑や生き物の保護を進める」と回答した者が皆無であった。また、吉田地区では「環境保護やリサイクルに自主的に取り組んでいる市民団体や消費者団体への支援を充実する」が55.0%あり、この地区での優先順位が最も高い結果であった。

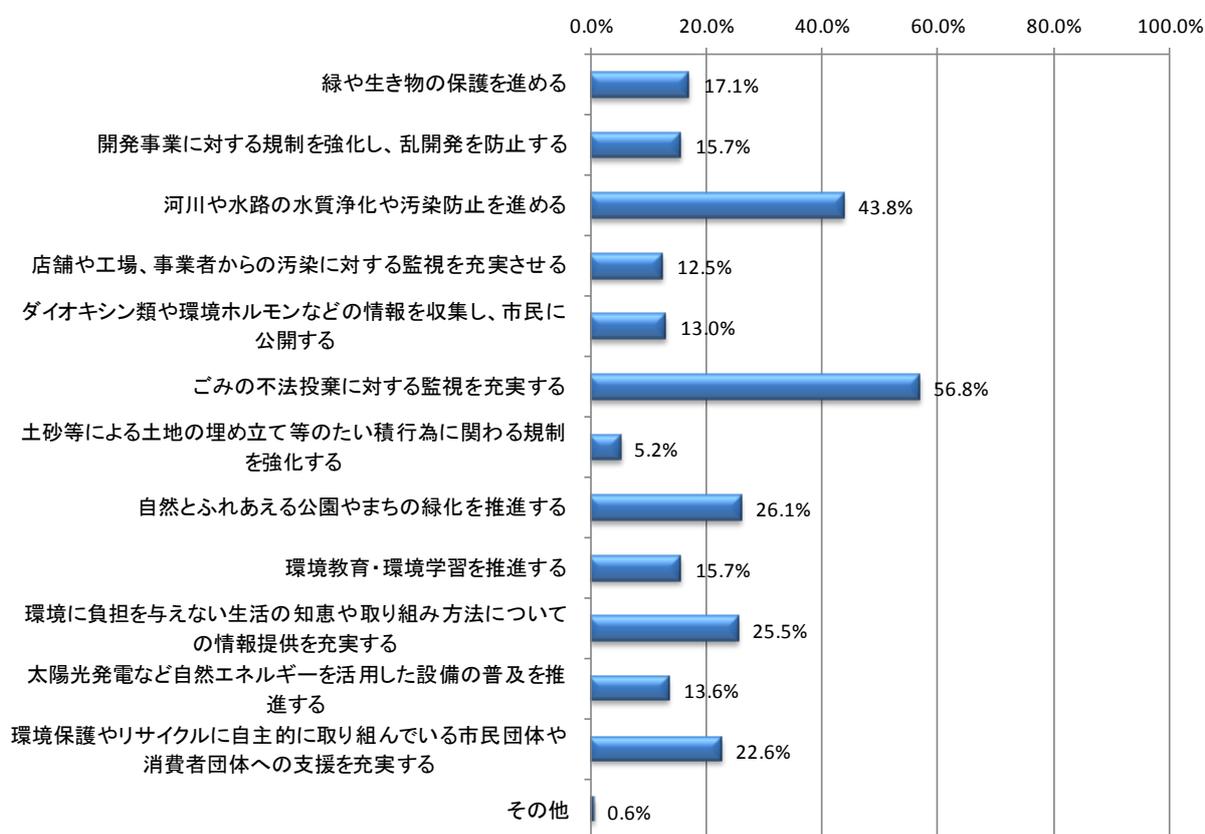


図 I-43 市が特に優先して取り組むべき環境施策（全体）

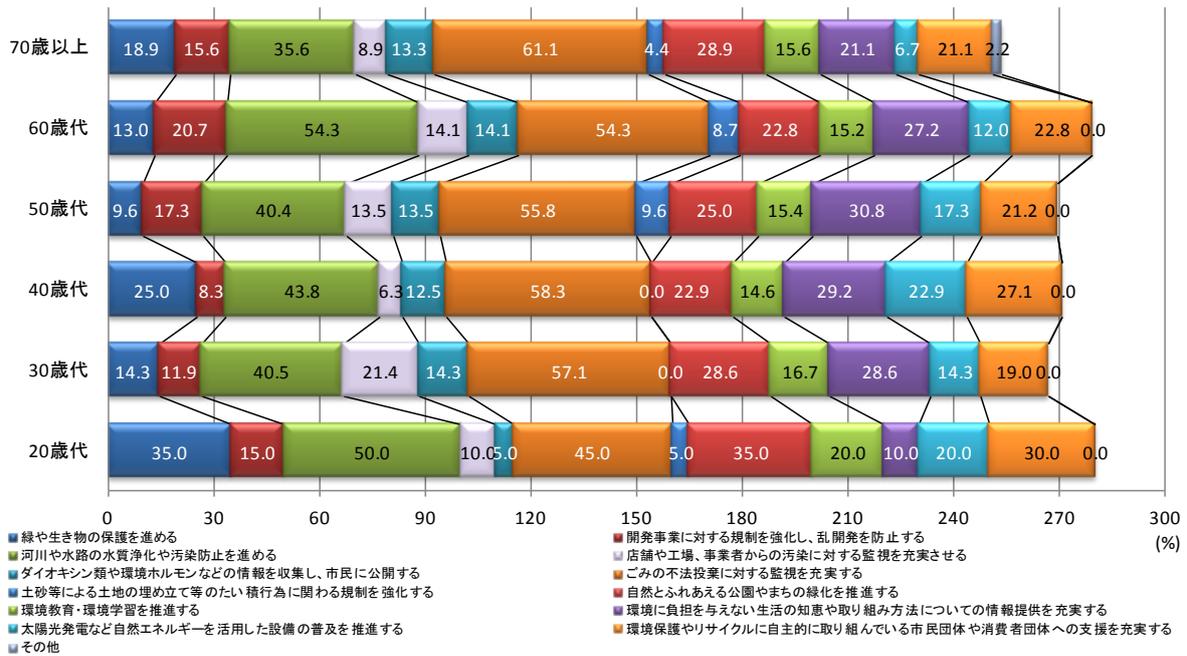


図 I-44 市が特に優先して取り組むべき環境施策（年齢別）

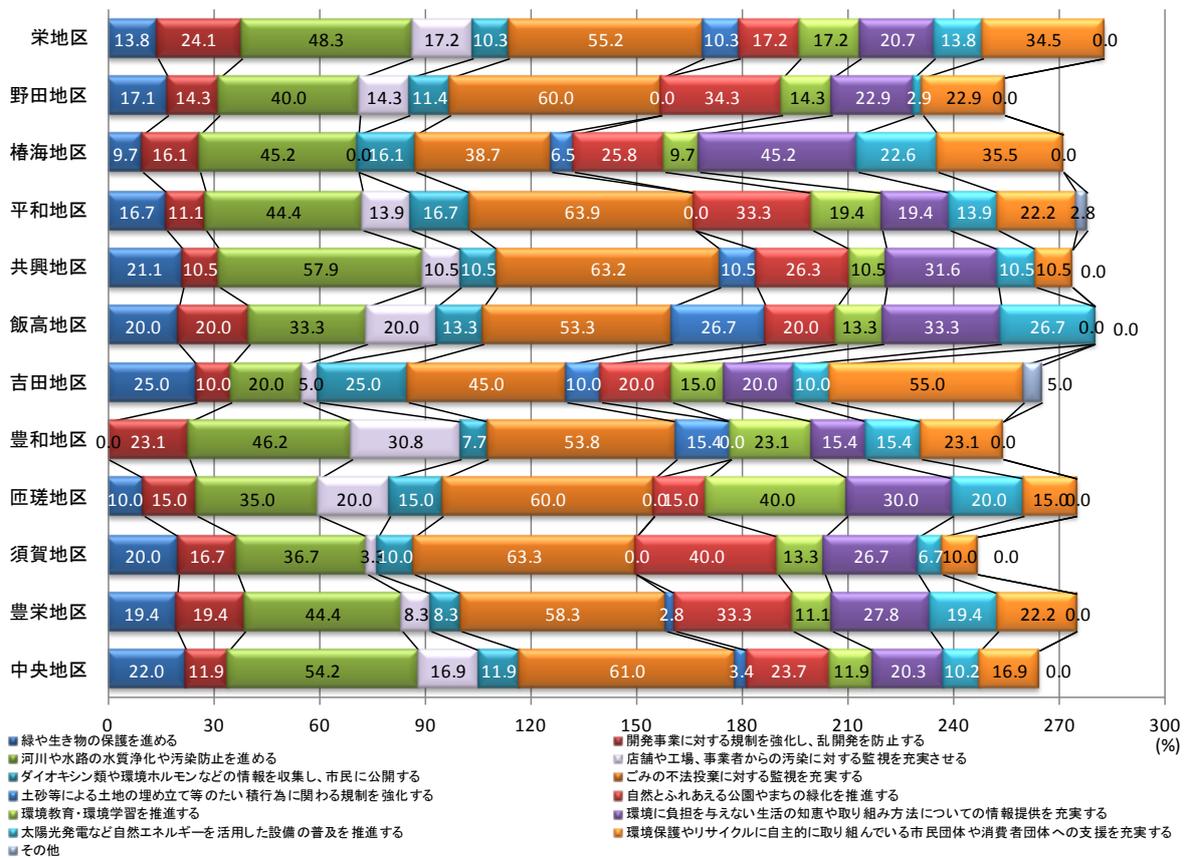


図 I-45 市が特に優先して取り組むべき環境施策（居住地区別）